

II 学習機会の提供

1 ふるさと活性化人材育成事業 「ふるさとおこしリーダー育成講座」

(1) 趣 旨

ふるさとにある「人」「もの」「自然」を活用したふるさとおこしを通し、ふるさとのよさを次世代に継承し、発信していく生涯学習リーダーを育成する。

(2) 主 催

かごしま県民大学中央センター

(3) 内 容

ア 目的

【基礎講座】

「ふるさとのよさ」を、自ら見つけ、学び、発信し、次世代に伝えることができる実践力を身に付けた、市町村等の地域における生涯学習リーダーとしての人材を育成する。

【ステップアップ講座】

当講座受講後の地域リーダーとしての活動の成果を自ら検証し、効果的な活動を発展的に深めるとともに、地域リーダー同士の交流を広げるなど、より一層自らの力で学習活動を推進する人材を育成する。

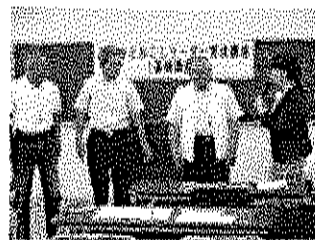
イ 講座の概要

	基礎講座	ステップアップ講座
内 容	生涯学習リーダーとしての基礎的な知識や技術等を習得するため、大学講師等による講話やプレゼンテーション等を行う。	これまでの活動内容を振り返る機会とし、活動事例発表やフォーラム等を行い、人との交流や絆を深め、活動の更なる発展に繋げる。
講座数	3講座(各3回)	2講座(全1回)
会場数	3会場(交流センター、始良・伊佐地区、大島地区)	2会場(県民交流センター、大隅地区)
対 象	ふるさとおこしに興味・関心のある県民	・過年度基礎講座受講者 ・市町村職員 ・青年団 等
定 員	各講座15人程度	60人(各30人)
受講料	無料	無料
講 師	5人(大学教員1, 民間3, 社会教育主事1)	1人(大学教員1), 民間1

ウ 受講者数

【基礎講座】

会 場	受講者数	各回受講者数			修了者数
		1回	2回	3回	
大島地区	22人	10人	14人	10人	9人
北薩地区	19人	17人	16人	12人	15人
交流センター	9人	9人	9人	5人	9人
合 計	60人	36人	39人	27人	33人



【講師による講話】



【プレゼンテーション】

【ステップアップ講座】

(かごしま県民交流センター会場)

受講者数	21人
------	-----

(大隅地区会場)

受講者数 (発表者3人を含む)	58人
--------------------	-----



【実践事例発表】



【現地研修】

エ 講座の実際

[基礎講座]

(7) 会場・期日・場所

交流センター会場（鹿児島市） 平成29年7月8日（土）・9日（日）・23日（日） かがし県民交流センター
 北薩地区会場（薩摩川内市） 平成29年9月2日（土）・3日（日）・10日（日） 薩摩川内市中央公民館
 大島地区会場（和泊町） 平成29年12月2日（土）・3日（日）・16日（土） 和泊町防災センター

(f) 講座内容

	プログラム	内容等	講師等(敬称略)
1 日 目	1 開講式 オリエンテーション1	<input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶 <input type="checkbox"/> 日程等についての説明	
	2 自己紹介	<input type="checkbox"/> 自己紹介 ・自己紹介、受講理由等の発表	
	3 講話1	<input type="checkbox"/> 生涯学習に関する講話 「地域の物語を紡ぐふるさとおこしリーダ ーとは」	金子 満 (鹿児島大学法文学部准教授)
	4 事例学習	<input type="checkbox"/> 実践事例発表 ・過去受講者等による現在の活動状況の 発表 「活動の動機及び今後の課題について」	・窪田 弘文 (県民交流センター会場) ・吉田伊都子 (県民交流センター会場) ・花園 清太 (北薩地区会場) ・大迫 誠一 (北薩地区会場) ・東 幸樹 (大島地区会場) ・前田 重治 (大島地区会場)
	5 まとめと指導	<input type="checkbox"/> まとめと指導	金子 満
	6 講話2	<input type="checkbox"/> 講話 「人前で自信をもって話すコツ」	池上 美弥子 (元NHK・KKBアナウンサー)
2 日 目	7 オリエンテーション2	<input type="checkbox"/> 日程等についての説明	
	8 講話3	<input type="checkbox"/> 講話 『人』『もの』『自然』の発見の仕方・生 かし方 <input type="checkbox"/> 講話 (大島地区会場) 「住民自治による感動の地域再生～リー ダーは企画力・演出力・財務力が不可欠～」	東川 隆太郎 (NPO法人かごしま探検の会代表理事) 豊重 哲郎 (大島地区会場) (鹿屋市柳谷自治公民館館長)
	9 質疑応答	<input type="checkbox"/> 講話3に対する質疑応答	東川 隆太郎 (NPO法人かごしま探検の会代表理事)
	10 講話4	<input type="checkbox"/> 講話 「魅力ある会議の進め方」	中川 辰也 (かごしま県民大学中央センター社会教 育主事兼専門員)
	11 活動計画案作成	<input type="checkbox"/> 活動計画案作成 ・活動計画案の作成	
12 講話5	<input type="checkbox"/> 講話 「効果的な広報用チラシ作成、SNSを活用 した広報の仕方」	鎌田 香 (オドゥール代表) 松田 貴志 (大島地区会場) (ヒーローズデザイン代表)	
3 日 目	13 オリエンテーション3	<input type="checkbox"/> 日程等の説明	
	14 プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 活動計画案の発表	金子 満 (鹿児島大学法文学部准教授)
	15 フォーラム	<input type="checkbox"/> 14に基づく質疑応答・意見交換等	
	16 講話6	<input type="checkbox"/> 講話 ・まとめと実践に向けた助言	金子 満 (鹿児島大学法文学部准教授)
	17 アンケート記入	<input type="checkbox"/> アンケート記入、その他	
	18 閉講式	<input type="checkbox"/> 修了証書授与 <input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶 <input type="checkbox"/> 諸連絡(活動調査協力等)	

[ステップアップ講座]

(7) 日時・場所

平成29年6月3日(日) 13:00~16:50 鹿屋市中央公民館
 平成30年1月27日(土) 10:00~15:10 かごしま県民交流センター

(4) 講座内容

	プログラム	内容等	講師等(敬称略)
大隅地区会場	1 開講式・オリエンテーション	<input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶 <input type="checkbox"/> 日程説明等	
	2 受講者自己紹介	<input type="checkbox"/> アイスブレイキング	
	3 シンポジウム ・実践事例発表 ・質疑応答, 意見交換	<input type="checkbox"/> 活動実践内容の発表 ・過去受講者による実践発表 ・実践発表に対する質疑応答, 意見交換	金子 満 (鹿児島大学法文学部准教授)
	4 テーマ別グループトーク	<input type="checkbox"/> テーマ毎のグループトーク ・各班からの報告	
	5 講話	<input type="checkbox"/> 講評 ・今後の活動に向けての指導助言	
	6 閉講式	<input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶	
県民交流センター会場	1 開講式	<input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶	
	2 オリエンテーション	<input type="checkbox"/> 日程説明等	
	3 自己紹介	<input type="checkbox"/> 自己紹介	
	4 現地研修	<input type="checkbox"/> 先遣地視察 ・活動内容説明 ・説明に対する質疑応答, 意見交換 等	前田 清輝 (垂水市大野地区公民館館長)
	5 テーマ別グループトーク	<input type="checkbox"/> テーマ毎のグループトーク ・各班からの報告	金子 満 (鹿児島大学法文学部准教授)
	6 講話	<input type="checkbox"/> まとめと今後の活動について	
	7 閉講式	<input type="checkbox"/> 中央センター所長挨拶	
	8 諸連絡	<input type="checkbox"/> 諸連絡 ・今後の活動について等	

(7) 事例発表者・発表内容

No.	発表者(敬称略)	発表内容	受講年度
1	鳥越 ノリ	地域の活性化のために、手作りだんご、漬け物等の販売を集落等で行っている。	H27
2	竹下 利文	過疎化した地域を活性化するために、昔からある水路や池で「魚釣り大会」「鯉の繁殖と放流会」「植樹祭」等を実施している。	H27
3	山下 海征	学校でもの作り、本の読み聞かせ、梅サワー作り等をとおして、子供の健全育成に取り組んでいる。	H27

(4) 個人テーマ（平成29年度基礎講座受講時）

目的・主旨等	内 容	人数
地域の活性化、 青年団活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化事業による地域おこし。 ・ 地区住民が一同に会し、老若男女が集う公民館単位で行う、スポーツ、レクリエーション大会を行う。 ・ 自治会による夏祭りを行う。 ・ 元旦に地区の山に登り、初日の出を拝む。 ・ 案山子による地域活性化を図る。 ・ 各種団体、異年齢集団との交流をとおして、地域の活性化を図る。 ・ 小学校跡地の活用 ・ 校区の活性化（2人） ・ 集落の活性化を図る。（清掃活動等）（2人） ・ 地域資源である個人宅の「庭」を時期限定で開放してもらう。 ・ かごしま弁フェスティバルの実施 	13人
観光振興 郷土理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の魅力を伝えるため、史跡や自然などを伝えるための人材を養成する。 ・ 集落の歴史や文化に触れる。 ・ 集落のパンフレット作成 	3人
青少年教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生とその保護者を対象とした野外体験活動を行う。 ・ 町内の小学生を町の歴史に触れてもらい、町内への関心をもってもらう。 ・ 島の方言、芸能の伝承活動を行う。 ・ 児童の放課後の学びの場、居場所づくりを行う。 ・ 島留学生の受け入れ。 ・ 中学2年生を対象とした「立志の集い」の実施 ・ 西郷公園～南州神社遠歩 ・ 小・中学生への方言の伝承 	8人
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供、高齢者を犯罪や事故から守る。 	1人
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に参加できる若者の出会いの場作り。 ・ 新しい介護現場をつくり、幸せの輪を広げる。（3K：感動できる。稼げる。心地よい） ・ 町の耕作放棄地にやぎなどの家畜を放牧し、町の景観の保全につなげる。 ・ 生活習慣病の予防、健康増進を図る。 	4人

2 生涯学習県民大学講座

(1) 趣 旨

多様化・高度化する県民の生涯学習ニーズに応えるため、大学等と連携して、現代的課題等に基づく学習機会の提供を図る。

(2) 主 催

中央センター。ただし、中央センターと連携して事業を推進する市町村教育委員会も主催とすることができる。

(3) 内 容

主に現代的課題や社会的要請に基づく内容とし、各会場2講座とし、会場市町村教育委員会が希望する内容とする。ただし、1講座は「教育・子育て」に関わる内容とする。

(4) 概 要

ア 会場及び講座数

地 区	市町村数	会場数	講座数	開設市町
南薩地区	1	1	2	南さつま市
北薩地区	1	1	2	阿久根市
始良・伊佐地区	1	1	2	始良市
大隅地区	3	3	6	曾於市, 大崎町, 東串良町
熊毛地区	1	1	2	西之表市
大島地区	2	2	4	龍郷町, 与論町
かごしま県民交流センター			8	

イ 実施時間

(ア) 1講座は、90分程度（質疑応答10分含む）とする。

(イ) 同日に2講座を行うことを基本とする。

ウ 講 師

各講座内容に応じた専門家

エ 受講者

県民（募集課程で受講対象に制限を設けない。）

オ 定 員

1講座は、30人程度とする（施設の状況に応じて設定）。ただし、2講座を連続して実施する場合であっても受講者の入れ替えは可能とする。

カ 受講料

無料

(5) その他

ア 広報・準備及び運営等は会場市町教育委員会と中央センターが協働・分担して行う。

イ 受講者募集等の広報の際は、講座会場の市町村教育委員会名及び講座名に、それぞれ以下の事項を併記する。

(ア) 主催として、「かごしま県民大学中央センター」

(イ) 講座名として、「生涯学習県民大学講座」

(6) 講座一覧及び受講者数

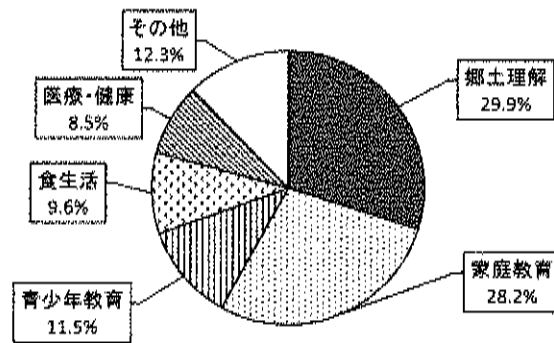
地区等	テーマ	講 座 名	講師(敬称略)	会場	期日	時間	受講者数	(内訳)	
								男	女
南 薩	教育・子育て (家庭教育)	子どもの学習意欲の見方・導き方	鹿児島大学教育学系 教授 今林 俊一	南さつま市民会館	6/17 (土)	(開講式13:00~) 13:10~14:40	31	4	27
	教育・子育て (青少年教育)	スポーツをする子どもへの大人の関わり方 —イギリスに学ぶ—	鹿屋体育大学 教授 森 茂己			15:00~16:30 (開講式16:30~)	25	5	21
北 薩	食生活	猛ばそう！健康寿命	元鹿児島純心女子大学 教授 根建 洋子	阿久根市民会館	2/24 (土)	(開講式13:00~) 13:10~14:40	55	6	49
	教育・子育て (家庭教育)	繋がりたいネット世代のリアル	NPO法人ネットポリス鹿児島 理事長 戸高 成人			15:00~16:30 (開講式16:30~)	44	8	36
姶 良・伊 佐	教育・子育て (家庭教育)	みんなで考えよう！ スマホ・ネットの安全・安心な利用	鹿児島大学大学院 准教授 山本 朋弘	姶良市姶良公民館	11/12 (日)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	30	16	12
	郷土理解	戦国武将・島津義弘を追う ～鬼ではない、人だ～	仙遊園 学芸員 岩川 拓夫			13:20~14:50 (開講式14:50~)	50	37	13
大 隅	教育・子育て (家庭教育)	子育てを楽しむために —アトラー心理学の視点—	鹿児島純心女子短期大学 教授 河野 一典	曾於市 東西総合 センター	12/17 (日)	(開講式13:00~) 13:10~14:40	42	7	35
	食生活(食育)	「食べものにはドラマがある」 ～心を育む食～	NPO法人霧島食育研究会 理事長 千葉 しのぶ			15:10~16:40 (開講式16:40~)	46	6	40
	医療・健康	生活習慣病の原因となる 「生活習慣」と、その改善	元鹿児島純心女子大学 教授 根建 洋子	大崎町 中央公民館	10/22 (日)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	27	4	23
	教育・子育て (青少年教育)	子どものかかわり方 —育てること育てられること—	志摩大学 名誉教授 片平 真理			13:20~14:50 (開講式14:50~)	35	7	28
	教育・子育て (家庭教育)	よか馬は風に向かって立つ ～夏に伸び代を創ろう～	鹿児島国際大学実習支援課 課長 日高 孝			東牟婁町 総合センター	7/15 (土)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	67
郷土理解	東牟婁おもしろ歴史再発見	NPO法人かごしま探検の会 代表理事 東川 勝太郎	13:20~14:50 (開講式14:50~)	53	13			40	
熊 毛	教育・子育て (家庭教育)	育てる脳・育てられる脳 ～「子育て」で変わる親子の脳～	鹿児島大学法文学部 教授 藤原 一敬	西之表市民会館	6/11 (日)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	49	11	38
	郷土理解	大河ドラマを美しく 西郷南洲翁の魅力と実力	西郷南洲顕彰館 館長 徳永 和壽			13:20~14:50 (開講式14:50~)	69	30	39

地区期	テーマ	講座名	講師(敬称略)	会場	期日	時間	受講者数	(内訳)	
								男	女
大島	郷土理解	西郷隆盛と島津斉彬	尚古集成館 館長 松尾 千歳	霧郷町 生涯学習センター りゅうがく館	7/2 (日)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	49	26	23
	教育・子育て (青少年教育)	「聞く楽しみ」から「読む楽しみ」へ	鹿児島純心女子短期大学 准教授 森本 朋佳			13:20~14:50 (開講式14:50~)	27	3	24
	防災・減災	津波のしくみ・災害の歴史	鹿児島大学工学部 教授 浅野 敏之	与論町 総合体育館	8/26 (土)	(開講式13:30~) 13:40~15:10	40	27	13
	教育・子育て (人権教育)	誰もが幸せに生きるための人権講座	県人権同和対策課 研修専門員 鎌田 豊作			15:30~17:00 (開講式17:00~)	38	27	9
かごしま交流センター	郷土理解	西郷隆盛と島津斉彬	尚古集成館 館長 松尾 千歳	かごしま県民 交流センター	6/24 (土)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	72	39	33
	郷土理解	両郷どんでまちあるき ～鹿児島城周辺～	NPO法人かごしま探検の会 代表理事 東川 隆太郎			13:20~14:50 (開講式14:50~)	22	13	9
	医療・健康	あなたとあなたの 大切な人のこころの健康を守るために	防衛医科大学校 教授 高橋 聡美		8/5 (土)	(開講式10:20~) 10:30~12:00	42	16	26
	教育・子育て (家庭教育)	人と上手にかかわるには？ —カウンセリングの発想に学ぶ	東京聖栄大学 教授 有村 久寿			13:30~15:00 (開講式15:00~)	34	11	23
	教育・子育て (生徒指導)	ノルウェー・フィンランドのいじめ対策に学ぶ	鹿児島大学教育学系 教授 大坪 治彦		11/26 (日)	(開講式13:00~) 13:10~14:40	39	10	29
	医療・健康	中高年者の健康づくりのための運動	鹿児島体育大学 教授 吉武 裕			15:00~16:30 (開講式16:30~)	21	11	10
	教育・子育て (青少年教育)	子どもの学習意欲の見方・導き方	鹿児島大学教育学系 教授 今林 俊一		2/3 (土)	(開講式13:00~) 13:10~14:40	33	12	21
	地域活性	開拓魂、過疎の村からのチャレンジ	蕨水市大野地区公民館 館長 前田 清輝			15:00~16:30 (開講式16:30~)	14	10	4
合計							1093	574	679

(7) テーマ及び内容別受講者数

テーマ	講座内容の要旨	講座数	受講者数	割合	合計	割合
教育・子育て	幼児教育	—	—	—	493	46.8%
	青少年教育	4	121	11.5%		
	家庭教育	7	297	28.2%		
	人権教育	1	36	3.4%		
	食生活	—	—	—		
	防災	—	—	—		
医療・健康	生徒指導	1	39	3.7%	191	18.1%
	食生活	2	101	9.6%		
	運動	—	—	—		
	医療・健康	3	90	8.5%		
地域・郷土	介護・看護	—	—	—	329	31.2%
	地域活性	1	14	1.3%		
防災	郷土理解	6	315	29.9%	40	3.8%
	防災・減災	1	40	3.8%		
合計		26	1,053	100.0%	1,053	100.0%

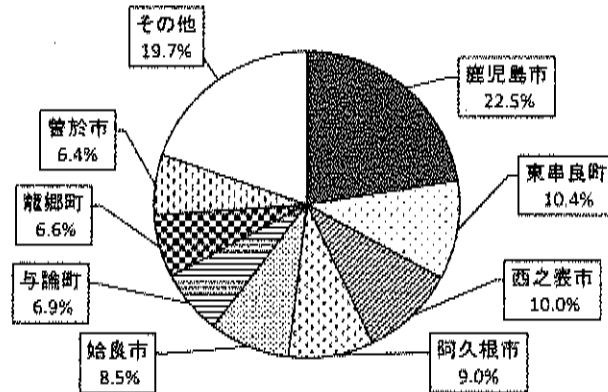
(7) 内容別受講者数 (割合)



(8) 受講者の居住地

No	市町村	受講者数	割合
1	鹿児島市	237	22.5%
2	東串良町	110	10.4%
3	西之表市	105	10.0%
4	阿久根市	95	9.0%
5	姶良市	90	8.5%
6	与論町	73	6.9%
7	龍郷町	69	6.6%
8	曾於市	67	6.4%
9	大崎町	57	5.4%
10	南さつま市	56	5.3%
11	志布志市	21	2.0%
12	鹿屋市	16	1.5%
13	中種子町	12	1.1%
14	日置市	8	0.8%
15	霧島市	8	0.8%
16	奄美市	7	0.7%
17	肝付町	4	0.4%
18	指宿市	4	0.4%
19	出水市	3	0.3%
20	いちき串木野市	3	0.3%
21	錦江町	2	0.2%
22	伊佐市	1	0.1%
23	南九州市	1	0.1%
24	県外(大阪, 東京, 長野)	4	0.4%
合計		1,053	100.0%

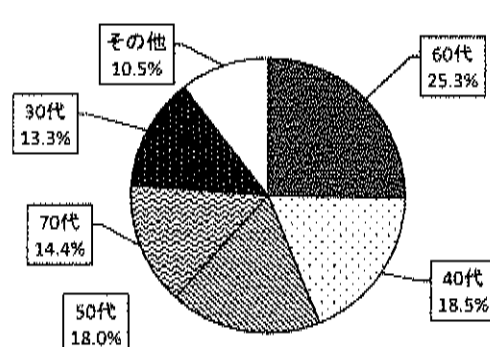
(8) 受講者の居住地 (割合)



(9) 受講者の年齢及び性別

年齢	男	女	合計	割合
10歳未満	2	1	3	0.3%
10代	5	9	14	1.3%
20代	26	33	59	6.6%
30代	15	125	140	13.3%
40代	45	150	195	18.5%
50代	86	104	190	18.0%
60代	114	152	266	25.3%
70代	67	85	152	14.4%
80歳以上	14	20	34	3.2%
合計	374	679	1,053	100.0%
割合	35.5%	64.5%	100.0%	

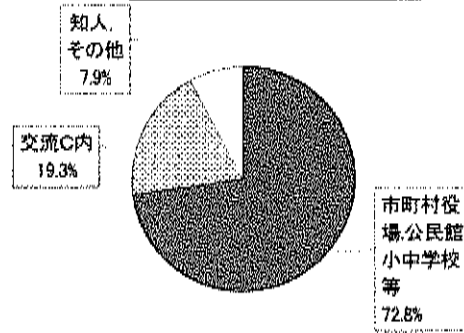
(9) 受講者の年齢 (割合)



(10) 講座チラシ入手先

会場市町	役場等	交流C	知その他	合計
南さつま市	19	2	0	21
阿久根市	43	0	4	47
始良市	21	4	3	28
曾於市	25	0	1	26
大崎町	10	0	1	11
東牟婁町	16	3	1	20
西之表市	26	2	2	30
龍郷町	25	0	9	34
与論町	13	0	6	19
交流センター	78	62	3	143
合計	276	73	30	379
割合	72.8%	19.3%	7.9%	100.0%

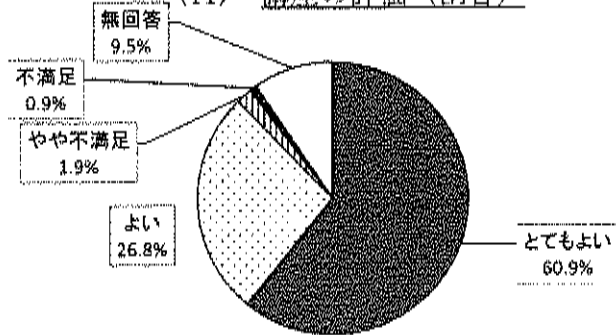
(10) チラシの入手先(割合)



(11) 講座の評価(受講者へのアンケート結果から)

項目	人数	割合
とてもよい	537	60.9%
よい	236	26.8%
やや不満足	17	1.9%
不満足	8	0.9%
無回答	84	9.5%
合計	882	100.0%

(11) 講座の評価(割合)



(12) 各講座の概要

【南薩地区（南さつま市）】

ア 「子どもの学習意欲の見方・導き方」

(ア) 講師

鹿児島大学教育学系 今林 俊一 教授

(イ) 内容

① 学習意欲の分類（櫻井 2013）

- ・ 意欲は、①自律的な学習意欲（内発的な学習意欲と自己実現のための学習意欲）②他律的な学習意欲がある。
- ・ ②は積極的に学習し、メンタリティに健康であるというデータが出ている。

② 学習意欲に適切な報酬（櫻井 2013）

- ・ 学習意欲（無気力、他律的な学習意欲、自律的な学習意欲）によって、与える報酬（ほめ言葉、ご褒美、見守る、自己評価など）は違う。

③ 意欲について

- ・ 意欲とは、仕事・学習や生活にどれだけやる気をもって取り組めるかということであり、達成したいと願望をもっていたり願望をエネルギーにしたりすることである。
- ・ 意欲喪失の原因は、失敗や敗北経験やプレッシャーのかかる言葉かけである。
- ・ 失敗場面における適切な対応の仕方は発達段階や失敗の様子によって異なる。

④ 必然性とこだわり（やる気のある人）

- ・ ①内容必然性（～を学びたくて学ぶ）②状況必然性（状況が要求するから学ぶ）③自己必然性（自分にとって重要だから学ぶ）の3つのタイプの意欲は、個人の中での濃淡の差として現れる。3つの必然性がバランスよく混じり合っていると理想的である。

⑤ 自信とは

- ・ 自信の大きさは、結果を出すために予めしておくものである。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 子供が意欲をもってする勉強をするために、親はどう接すればよいかわかった。
- ・ 日々の生活やPTA活動においてヒントになる内容で、自分自身が成長することができた。
- ・ 「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。」という言葉が心に残った。



講師：今林 俊一 氏

イ 「スポーツをする子どもへの大人の関わり方-イギリスに学ぶ」

(ア) 講師

鹿屋体育大学 森 克己 教授

(イ) 内容

① スポーツ指導の実態

- ・ 指導者による体罰・虐待は、少なくなっているが、依然として根絶されていない。
- ・ スポーツ指導者の体罰・虐待の問題は、日本のスポーツ界全体で取り組むべき、アスリートの人権問題と捉えるべきである。

② 体罰等が発生しやすい理由

- ・ ①指導者とアスリートの身体的接触が不可欠②スポーツの商業主義化、勝利至上主義③体罰肯定の根強い神話の存在④指導者の愛の鞭、熱心さのあまり など

③ イギリススポーツ分野のチャイルド・プロテクション（CP）制度

- ・ 18歳未満の子どもをスポーツ指導者の体罰・虐待などから保護する制度である。
- ・ 様々な法律が組み合わさって成り立っている。
- ・ DBSによるチェック制度（子どもと関わることに不適切な犯罪歴を有する者をスポーツ指導から排除する制度）、指導者による指導の在り方との関連性などの特徴がある。

④ まとめ

- ・ オーバートレーニング、セクハラや暴力根絶説宣言、スポーツの資格制度の研修会、運動の在り方のガイドライン作成など、日本でも取組は行われている。
- ・ 子どものスポーツに関わるには「本来スポーツとは楽しいものである」を忘れてはならない。

(ウ) 受講者の感想

- ・ スポーツをする子供に対する指導者・コーチ・親の対応など参考になった。
- ・ イギリスのCP制度を学ぶことができた。
- ・ 日本でも、文科省・全中連・全高連で「体罰0」を目指して取り組んでいるが、指導者の意識改革と継続的な研修が必要だと思った。



講師：森 克己 氏

【北薩地区（阿久根市）】

ア 「延ばそう！健康寿命」

- (ア) 講師
元鹿児島純心女子大学 根建 洋子 教授
- (イ) 内容

- ① 健康寿命とは
- ・ 介護を必要としないで自立した生活ができる生存期間のこと。
 - ・ 男性で約9年、女性で約12年、平均寿命との差がある。
- ② 「健康寿命を縮める要因」=介護が必要となった原因
- ・ 「平成28年国民生活基礎調査」によれば、認知症（18.0%）、脳血管疾患（16.6%）、高齢による衰弱（13.3%）、骨折・転倒（12.1%）、関節疾患（10.2%）、その他（26.8%）である。
 - ・ メタボリックシンドローム、フレイルやロコモティブシンドロームといった生活習慣が要因となる病態がこれらの疾患につながると考えられており、健康寿命を延ばすためには、生活習慣の改善が重要である。
- ③ 健康寿命を延ばすために＜一次予防と二次予防＞
- ・ 一次予防とは、生活習慣病では健康増進・発病予防をいい、介護予防では要介護状態にならないようにすることをいう。「体重管理→適切なBMI（肥満指数）」「栄養改善→バランスのとれた食事、体にやさしい食塩摂取量」「健康づくりのための身体活動基準（運動習慣）」「ロコモティブシンドローム対策」「嚥下障害」などを知り、実践につなげることが大切である。
 - ・ 二次予防とは、生活習慣病では健診などで疾病を早期に見付け早く治療すること、介護予防では生活機能低下を早く見付け早期に対応することをいい、こちらも大切である。
- ④ 延ばそう！健康寿命
- ・ 生活習慣の改善は“こつこつ”と。寿命も健康寿命も延ばして豊かな人生を送ろう。
- (ウ) 受講者の感想
- ・ 生活習慣病が認知症、要介護状態になることと大きな関係があることがよく分かった。
 - ・ 日頃の食事の塩分を摂っているかがよく分かった。今後の食生活を改善したい。
 - ・ 生活習慣がとても大事なことを再認識した。身体を動かすことの必要性を強く感じた。



講師：根建 洋子 氏

イ 「繋がり続けたいネット世代のリアル」

- (ア) 講師
NPO法人ネットボリス鹿児島 戸高 成人 理事長
- (イ) 内容

- ① それぞれの立場で要因
- ・ 青少年の要因→「利用者としてネット社会に関する知識・理解不足」「自己管理能力の不足」
 - ・ 青少年が身に付けるべきリテラシー→①違法コンテンツ・有害コンテンツに適切に対処できる能力②ネット上で、適切なコミュニケーションができる能力③プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力
 - ・ 保護者・大人の要因→「ネット社会に関する知識・理解不足」「知らないではすまされない現状の認識不足」「子供と共に学ぶ姿勢の不足」「保護者としての責任の自覚不足」
 - ・ 社会・行政等の要因→「トラブルの早期発見、早期対応のための環境整備不足」「保護者等への学習機会の提供不足」
- ② ネット型非行
- ・ 非行傾向が見られなかった、いわゆる普通の少年・少女が事件に巻き込まれる、もしくは事件に能動的に参加してしまう傾向が見られる（SNS型依存）という特徴がある。
 - ・ 問題点としてあげられるのは、「電子機器の進化が早く、大人が道具に責任転嫁」「親子関係が不安定な子供や発達（ネット依存等）に課題を抱えている子供が被害多」「取組の温度差」
- ③ 「ネット型非行・トラブル」への対策
- ・ 「学校と地域と連携して実施するサイバーパトロール」「情報モラル教室」「啓発活動」「保護者への義務と責務の周知」「キーパーソンとなる人材育成」
- (ウ) 受講者の感想
- ・ 家庭に帰り家族と話し合いたい。学校でも話してほしい内容であった。
 - ・ セキュリティや写真撮影（掲載）について具体的な話を聞くことができてよかった。
 - ・ ネット世界のことが分からず子供に指導する自信がなかった。今日は、勉強できてよかった。



講師：戸高 成人 氏

【始良・伊佐地区（始良市）】

ア「みんなで考えよう！スマホ・ネットの安全・安心な利用」

(ア) 講師

鹿児島大学大学院 山本 朋弘 准教授

(イ) 内容

① ネット上のコミュニケーション

- ・ SNS（コミュニティサイト）での事件・事故が多発（特に、Twitterの被害）している。
- ・ コミュニケーションの仕方が多彩である。大人が知らないではすまされない。
- ・ 「フィルタリングも付けないといけない」「危険なものから子供を守らなければ」という意識が大切である。

② 責任ある情報発信

- ・ 発信先が、不特定多数か特定の相手か確認する。
- ・ 発信後にどんなことが起きるかを予想する。
- ・ 関係ない人が不快な気持ちにならないか考える。
- ・ マイナスな情報（言葉）はアップしない。
- ・ 信頼できる情報かどうか確かめるには、「複数の情報源で調べる」「発信者は誰か」「反対の意見を聞く」などを行う。

③ 家庭でのルールづくり（子供の成長に合わせてルールを見直す）

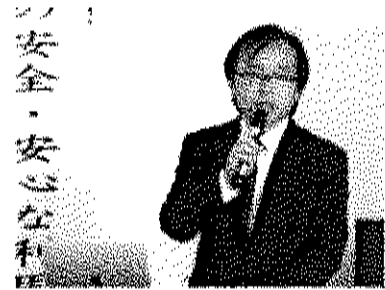
- ・ 「ルールが自分を守ってくれる」ことを伝える。
- ・ お互い納得できるよう、話し合って作る。
- ・ 子供が守れるルールを作る。
- ・ 具体的なルールを作る。
- ・ トラブルがあったら保護者に相談する。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 今後SNSに触れずに生活することは難しい。自分が知ること、伝えることが大切だと思った。
- ・ どのように子供を守っていくのか具体的方法が示されていた。家族ぐるみで取り組みたい。
- ・ 全国の小・中・高のスマホ・携帯の所持率が非常に高い。家庭でのルールについて強化したい。

安全・安心な利用

講師：山本 朋弘 氏



イ「戦国武将・島津義弘を追究する～鬼ではない、人だ～」

(ア) 講師

仙巖園 岩川 拓夫 学芸員

(イ) 内容

① 明治維新と戦国島津

- ・ 明治維新の原点は、戦国島津にある。（明治維新50周年 日新公 贈正三位）

② 義弘の顕彰運動

- ・ 加治木町の顕彰運動、精矛神社（加治木）の改修・遷座
- ・ 大正時代の贈正三位（加治木の人々の努力）

③ 義弘のイメージ

- ・ 無鉄砲な挑戦ではなく、ぎりぎりまで状況を見て判断した選択（戦場）
- ・ 県外のイメージは「鬼」であるが、日本における後年の創作の可能性がある。
- ・ 「貴賤男女に拘わらず段々有り難き御意を賜るものが例」（江戸時代）

④ 義弘の家族愛

- ・ 当時ではとてもまれな恋愛結婚、家族への細やかな手紙（妻宰相殿へ、31歳の息子へ）
- ・ 「酒は『悪事』のもと、一滴も許さない」「『まあ一杯！』でも癖になるので少しも飲みな！」という手紙を息子に送る。

⑤ 義弘の家臣愛等

- ・ 身分の上下なく同じ所で焚き火にあたる。（「薩藩旧伝集補遺」より）
- ・ 武功を残した、残さないに拘わらず、家臣の子供に対して励ます。
- ・ ドクターとしての義弘（家臣のけがの手当）（「薩藩旧伝集巻ノ一」より）
- ・ 「猫神」朝鮮出兵の際、7匹の猫を時計替わりに従軍→帰国した2匹を鹿児島城下で祭る。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 島津義弘の人間的な側面をいろいろと教えていただき、勉強になった。
- ・ 多面的に史料を基に話をしていただき、人間としての義弘についてよく分かった。
- ・ 自分の知らなかった島津義弘を知ることができた。もっともっと知りたいと思った。

島津義弘を追究する
は、鬼ではない、人だ。
岩川 拓夫

講師：岩川 拓夫 氏



【大隅地区（曾於市）】

ア 「子育てを楽しむために-アドラー心理学の視点-」

(7) 講師
鹿児島純心女子短期大学 河野 一典 教授

(4) 内容

① アドラー心理学の紹介

- ・ 人生の困難は全て、結局人間関係の問題である。(アドラー)
- ・ よい人間関係は、「縦の関係（支配関係）」ではなく、「横の関係（対等な関係）」である。

② 子供とどう付き合うか

- ・ 小さい子供にとっては家庭が「世界そのもの」であり、家族の在り方がその子のライフスタイル（その子の世界や人生に向かう姿勢）を決める。
- ・ 怒ったり叱ったりするのは、相手に自分の言うことを聞かせようとするものの表れである。それよりも、相手に自分の気持ちを伝える（押しつけるのではなく）ことが大切である。
- ・ 子育ては甘やかせるのではなく、独り立ちの練習をさせることが大切。「まだ無理だ」と思っても、子供にさせてみる。失敗してもいいから気長に待つ姿勢が良い。失敗や未熟さを指摘することは、相手の勇気をくじき、自ら努力し困難を克服する「勇気」を奪ってしまう。
- ・ 叱ったり褒められたりすることに余りにも慣れて育った人は、叱られたり褒められたりしないと行動しなくなる。(自分の行動の動機が他人の評価に依存し、自立を妨げる)。

③ 幸福とは

- ・ 幸福（生きる喜び）は、獲得し所有するものではなく、結局人間関係の中で生まれる喜びである。人生の喜びは、「しがらみのない自由な行動と責任感」「自立心」「他者との対等な人間関係」「貢献感」である。そのような心が、子供の頃から内発的に生まれてくるような子育てをしたい。

(7) 受講者の感想

- ・ 子供や孫との接し方を教えられ、どう向き合っていけばよいか考えることができた。
- ・ 子供に対して縦の関係ではなく、横の関係で接していきたい。子育てのヒントになった。
- ・ 子育て中の息子に今日の話をしてあげたい。



講師：河野 一典 氏

イ 「食べものにはドラマがある～心を育む食～」

(7) 講師
NPO法人霧島食育研究会 千葉 しのぶ 理事長

(4) 内容

① 活動の目的・課題

- ・ 食べものをないがしろにせず、大切に作る文化を創りたいという目的と「親が子供に食の大切さを伝えていない」「農家や漁家など食べるものを作る人がいなくなる。」という発足当時の課題

② 食を大切に作る活動例

- ・ 「無いものをねだる」のではなく、「有るものを探す」そして、「有るもので今までに無かったものを作ろう」と思って始めた「霧島たべもの伝承塾」
- ・ レシピはなし、手もと口もとで、講師は霧島の高齢者（様々な知恵を教えてください）。
- ・ 同じ料理でも中味も違うし、料理には、それぞれの思い（ドラマ）がある。（「霧島・食の文化祭」）

③ 畑や田んぼを通じた命の教室

- ・ 体験を通じた活動を行い、その経験を忘れないでほしいという思い。
- ・ 自分で作った豆腐の味を忘れず、20年後30年後自分の子供に食べるものの大切さを心を込めて伝えてほしい。

④ まとめ

- ・ 食育は目的でなく道具である。人の心を温かく優しく深く耕す道具である。
- ・ 子供の前で「ああ、疲れた。ご飯を作るの面倒だ」という言葉は、絶対に言わないでほしい。食べる＝命そのものである。子供は親が作るものでしか生きていけない。
- ・ 親が責任をもって子供に伝えてほしいこと→自分が食べるものを自分で作ること（ご飯・味噌汁・野菜炒め・焼き魚）。目的は自分の命を守るため。

(7) 受講者の感想

- ・ 食の大切さを改めて感じた。食べることは命につながることを、大切にしたい。
- ・ 仲間を集めて郷土料理を作りたいなあと思った。今後、心を込めて料理をしたい。
- ・ 遠い昔、自分が育った頃や両親を思い出し、涙がこぼれた。



講師：千葉 しのぶ 氏

【大隅地区（大崎町）】

ア 「生活習慣病の原因となる『生活習慣』と、その改善」

(ア) 講師

元鹿児島純心女子大学 根建 洋子 教授

(イ) 内容

① 生活習慣病とは

- ・ 食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群をいう。(厚生労働省の定義)

② 平均寿命・健康寿命と生活習慣病の関わり

- ・ 日本人の平均寿命はほぼ一貫して延び続けているものの、人口動態統計によれば、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患といった生活習慣病が死因の大きな割合を占めている。

- ・ 国民生活基礎調査によると、「健康寿命」を縮める要因は、認知症、脳血管疾患、高齢による衰弱、骨折、転倒、関節疾患などであり、これらも生活習慣との関わりが大きい。

③ 生活習慣病の一次予防

- ・ 一次予防とは、健康増進・発病予防である。「体重管理→適切な「BMI」（肥満指数）」「栄養改善→バランスのとれた食事、体にやさしい食塩摂取量」「健康づくりのための身体活動基準（運動習慣）」「ロコモティブシンドローム対策」「嚥下障害」などを知り、実践につなげることが大切である。

④ 生活習慣病の二次予防

- ・ 二次予防とは、早期発見・早期治療である。一次予防で完全に予防することは不可能なので、がん検診、特定健診、特定保健指導、各種検診などを活用し、二次予防も心がけよう。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 生活習慣病予防のための食生活・身体活動等が具体的に分かり、今後意識して取り組みたい。
- ・ 健康寿命を伸ばしていけるように、今日の講座を生かし、健康な体で長生きしたい。
- ・ 「行動の積み重ね」が心に強く残った。学んだことの実践を続けていきたい。



講師：根建 洋子 氏

イ 「子どもとのかかわり方-育てることと育てられること-

(ア) 講師

志学館大学 片平 真理 名誉教授

(イ) 内容

① 人間の発達

- ・ 乳児期（基本的信頼感）…愛着の形成
- ・ 幼児期…躰、遊び、自我の芽生え、理解すること≠できること
- ・ 児童期…「好ましい行動をしないことに罰を与えるより、『した』ことを認めること」「上下関係（ほめる）から対等な関係（認める）を少しずつ作っていく時期」
- ・ 青年期…青年期前期（思春期）：親は思秋期。心理的離乳、境界人（子どもと大人の間）、家庭内ルールの変化

② 親子関係

- ・ 日常の中で言葉と態度が一致しているかを振り返ることが大切である。
- ・ やる気は、自己効力感・自己肯定感（自分は能力がある、できる）と関連する。
- ・ 問題行動を行う子どもは、「困った子」ではなく、「困っている子」である。
- ・ 叱るよりは、「努力していること」「できていること」を認める。（まずは、25%ルール）

③ どのような関係においても大切な視点

- ・ うまくいっていることは続けよう。
- ・ うまくいかないなら、何か違ったことをやる。
- ・ 目標は具体的で、行動に関することにする。
- ・ もうやらないことでなく、これからすることを伝える。
- ・ 非言語コミュニケーション

(ウ) 受講者の感想

- ・ 子供とのかかわり方や言葉のかけ方など、多くのことを学ぶことができた。
- ・ 毎日の子育てでつい苛々しがちだったが、子供のよいところを見て伸ばすようにしたい。
- ・ 児童期後期から、対等関係を構築することの大切さを学ぶことができた。



講師：片平 真理 氏

【大隅地区（東串良町）】

ア 「よか馬は風に向かって立つ～夏に伸び代を創ろう～」

(ア) 講師

鹿児島国際大学実習支援課 日高 孝 課長

(イ) 内容

① 愛溢れる絵本をどうぞ

- ・ 「僕にもその愛をください」の読み聞かせ
- ・ 読み聞かせのすばらしさ

② 教育の現状と課題

- ・ いじめ、不登校、自殺数など、様々な課題が子どもたちの周りで起こっている。

③ 求められる学校の力

- ・ 多面的・多角的に見る力
- ・ 生活と結びつけた教育（例えば、黄金比）
- ・ 主体的、対話的、深い学び

④ 夏に生きる力の伸び代を創ろう！

- ・ 4つのC：CHANCE、CHALLENGE、CARE、CATCH
- ・ 読書と言葉の力：本の中には知識も知恵も感動も生きる力もある。選書が大切
- ・ 夏休みを3つに分けると、「学び直し」・「自由」・「2学期には…」1学期の復習は、7月前半、2学期の予習は、生活リズムの再確立も含め最後の一週間に。
- ・ 教育の原点は家庭（原点が難しいときは周りが。）

⑤ 見えないものが大事

- ・ 見えないものを豊かにし、自分が人生の主人公、自分の人生は自分しか創ることができない。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 教育について考えさせられた。夏休みに子供と一緒にチャレンジして、伸び代を創りたい。
- ・ 絵本の読み聞かせがよかった。夏休みに子供たちに読み聞かせをしたい。
- ・ 現在の教育や子供たちが置かれている状況、今後に向けた具体的な話が聞けてよかった。



講師：日高 孝 氏

イ 「東串良おもしろ歴史再発見」

(イ) 講師

NPO法人かごしま探検の会 東川 隆太郎 代表理事

(イ) 内容

① 歴史再発見

- ・ 前田利右衛門（山川出身）の墓…細山田の台地でものが食べていける地域になったのは、からいもを日本に持ってきてくれたおかげ。感謝の意を込め墓を持ってきた。
- ・ 田の神…東串良の田の神はやせ形が多い。
- ・ 柏原の石倉…花崗岩でできており、建築的にもすばらしく美しい。
- ・ 神社の境内を見渡すと様々なものを発見することができる。天児屋根命（アメノコヤネノミコト）を祭っている宮貫神社、廣田神社の彫刻のすばらしさ、大山津見神社、熊野神社、大塚神社など
- ・ 岡崎古墳、唐人古墳、歴史が見える堀、串良川の歴史（浸水の記念碑）、仏教文化、須田先生など
- ・ 地名の歴史…神武天皇と柏原、神武天皇御出航碑など
- ・ 至る所にあるトイレや看板にも歴史・おもしろさなどがあり、様々な発見ができる。

② 失われたもの

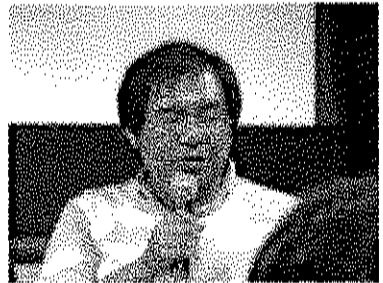
- ・ 串良駅、バス停、落書き、源氏風呂など

③ まとめ

- ・ 今覚えていることが刺激であり、次世代を担う人への資料になる。それを伝えることが使命であり、受け継がれることが、ふるさとが続くことになる。
- ・ 東串良のよさ（よいところ）を伝えることが、郷土の誇りとなり、若い人にも伝わる。

(ウ) 受講者の感想

- ・ あっという間の楽しい時間だった。郷土東串良のことをよく知りたかった。
- ・ 身の回りの歴史などを知ることができた。今後は、もっと周りに目を向けていきたい。
- ・ 東串良に住んで15年、少しずつ地域のことが分かってきて楽しみである。また参加したい。



講師：東川 隆太郎 氏

【熊毛地区（西之表市）】

ア 「育てる脳、育てられる脳～『子育て』で変わる親子の脳～」

(7) 講師

鹿児島大学法文学部 富原 一哉 教授

(4) 内容

① ホルモンと母親脳

- ・ エストロゲンとプロゲステロンが胎盤から多量に分泌され、「母親脳」をつくる。

② 母親脳の阻害要因

- ・ 環境ホルモン（内分泌攪乱物質…ダイオキシン類，ポリ塩化ビフェニール類，DDT殺虫剤，ビスフェノールA，植物性エストロゲンなど）やストレス

③ 母親脳の促進要因

- ・ 子供とのよい接触経験は，母親脳の発達を促す。
- ・ 母子コミュニケーションは，オキシトシン（社会的絆を強めるホルモン）の分泌を促す。

④ 母子接触と子供脳

- ・ 母子コミュニケーションは，子供の脳の発達にとっても重要である。
- ・ 母子関係の不安定な子供は，情緒障害を起こしやすい。

⑤ まとめ

- ・ 男性においても，女性においても子供とのよい接触経験が養育的「親脳」を形成する。
- ・ 接触経験は，必ずしも遺伝的な自身の子供である必要はない。
- ・ 早いうちから，子育ての援助経験を積ませることが，将来の父親，母親予備軍の育児支援になる。
- ・ 私たちは「脳」を変えられる。

(9) 受講者の感想

- ・ 生後6か月の子育て真っ最中である。子育てにおける貴重な話を聴くことができ，感謝したい。
- ・ 環境ホルモンについての話が興味深かった。また，「我々の脳は変えられる」に感動した。
- ・ 子育てには，親子のコミュニケーションが大切であることを再認識した。



講師：富原 一哉 氏

イ 「大河ドラマを楽しむ 西郷南洲翁の魅力と実力」

(7) 講師

西郷南洲顕彰館 徳永 和喜 館長

(4) 内容

① 勝海舟が伝えたかった南洲翁

- ・ 「恐るべき人物（西郷が要職についていない時代）」「西郷の一言で，江戸百万の生霊（人間）も，その生命と財産とを保つことができ，徳川氏も滅亡を免れた。」（江戸城無血開城）

② 薩摩の文化的土壌

- ・ 戦いが終われば敵味方なく英霊に対して敬意を払う。
- ・ 亡くなった人に対する考え方（「維新の最大の功労者は亡くなった方」…西郷の言葉）

③ 南洲翁遺訓・漢詩から

- ・ 西郷に心服していた旧庄内藩士たちが，西郷から直接聞いた教訓等をまとめたもの
- ・ 敬天愛人，獄中有感（獄中生活…沖永良部島），耐雪梅花廳、農業の意見書 など

④ 幕末に偉人が伝えたかった南洲翁

- ・ 藤田東湖…「天下の事を信任すべきは西郷氏ひとりか」
- ・ 坂本龍馬…「少したたけば少し響き，大きくたたけば大きく響く。（中略）利口なら大きな利口だろう。」
- ・ 島津奇彬…「西郷一人は薩国の大宝なり。しかしながら，彼は独立の気象があるがゆえに，彼を使う者，私ならではあるまじく」

⑤ 川口雪簷

種子島西之表村出身の書家ではないだろうか。名前は，「雪簷」説と「雪蓮」説があるが，正しくは前者である。

(9) 受講者の感想

- ・ 内容が濃く，敬愛する南洲翁のすばらしさを確認でき，さらに，興味がわいた。
- ・ 自分が知らない南洲翁について，多くのことを学ぶことができた。
- ・ 西郷さんの偉業に触れ，改めて誇りに思った。大河ドラマが楽しみである。



講師：徳永 和喜 氏

【大島地区（龍郷町）】

ア 「西郷隆盛と島津斉彬」

(7) 講師
尚古集成館 松尾 千歳 館長

(4) 内容

① 島津斉彬

- ・ 西欧列強の外圧にさらされ、琉球外交に問題を深刻に受け止めた斉彬は、日本も植民地化されると危惧する。
- ・ 日本が「一丸」となって近代化を推進し、日本を強く豊かな国にするべきと考える。
- ・ 「集成館事業」という近代化・殖産興業政策に力を注ぐ。
- ・ 公武合体の実現のため、将軍継嗣問題では一橋家の徳川慶喜を推した。

② 西郷隆盛

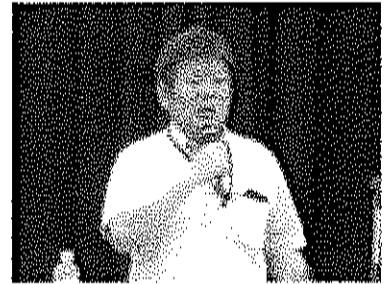
- ・ 本当の名（諱）は「隆永」であった。
- ・ 斉彬の手足となり、水戸藩・福井藩や近衛家との連絡・調整に当たり、篤姫興入・将軍継嗣問題に関わる。
- ・ 奄美大島での西郷は、愛加那を夫人に迎え、二子をもうける。
- ・ 奄美大島での生活は、煩わしい政治に関わることなく、最も幸せな時期だったことがうかがえる。【文久元年三月四日付 税所篤・大久保利通宛西郷書状、「男爵米田虎夫（元熊本藩士）談」（佐々木克監修『大久保利通』）より】

③ 薩摩にとっての明治維新とは

- ・ 幕府を倒すことが目的ではなく、日本を植民地化されないような国、近代国家に生まれ変わらせるためのものであった。

(7) 受講者の感想

- ・ 龍郷町ゆかりの西郷さんだけでなく、その主であり師の斉彬についても教えただけだ。
- ・ 西郷隆盛と島津斉彬について誤解している部分があった。とても勉強になった。
- ・ 分かりやすい説明で、幕末維新期の流れがよく分かった。



講師：松尾 千歳 氏

イ 『聞く楽しみ』から『読む楽しみ』へ

(7) 講師
鹿児島純心女子短期大学 森木 朋佳 准教授

(4) 内容

① 発達過程と絵本の楽しみ

- ・ 子どもと大人の距離に注目すれば、子どもが「何が楽しいか」がわかる。
- ・ 愛着（ポウルピィ）の発達段階（㊦一緒に㊧並んで㊨少し離れて㊩一人でも）

② 「絵本の構造」を知っているといいこと

- ・ 知っておきたい2つの絵本の構造「繰り返し構造」と「物語構造」

- ・ 絵本の構造を知っていると、「絵本の読み聞かせ方が上手になる」、「絵本の選び方が変わる」、「発達過程に合わせた絵本選びができるようになる」など

③ 「絵本の楽しみ」に注目した絵本選び

- ・ 「色・形・音・感覚を楽しむ」段階では、繰り返し（音・パターン）や感覚に訴えかける絵本を「先を予想して楽しんだり、好きなお話は何度でも読んだりしてほしい」段階では、繰り返し（はじめ・パターン・おわり）のある絵本を選ぶなど、発達過程に沿った絵本を選ぶとよい。

④ 読む楽しみへ（自分で読みたい!）

- ・ 適当なときに適当な絵本を準備できることも、「読む楽しみ」につなげる時期にとっては重要である。
- ・ 発達過程にぴったりな絵本を読んでもらえることが、「自分も読んでみたい」という心に近づく。

(7) 受講者の感想

- ・ 絵本の読み聞かせを日頃からやっているが、知らないことが多々あり、とてもためになった。子育てや小学校での読み聞かせに役立てたい。
- ・ 先生のお子さんとの実体験を交えての話で分かりやすかった。学んだことを我が子にもしてあげたい。
- ・ 毎日読み聞かせをしている。改めて絵本の持ち方、めくり方など勉強になった。



講師：森木 朋佳 氏

【大島地区（与論町）】

ア 「津波のしくみ・災害の歴史」

(7) 講師

鹿児島大学工学部 浅野 敏之 教授

(4) 内容

① 地震について

- ・ プレートテクトニクスで、地震、津波、造山運動、海溝、火山フロント・島弧の背後の海盆など、全て説明できる。
- ・ 地球表面を覆うプレートは、内部のマントルの活動で動いている。
- ・ プレート境界型（海溝型）地震は、プレート運動に伴う引きずり込みで、1年に数cmで動いている。

② 津波について

- ・ 津波とは、プレート境界地震で海底地盤が瞬時に動くと、その上の海水を持ち上げ、その波が周囲に伝搬し、海岸に来襲する。
- ・ 地震の大きさと発生する津波の大きさは必ずしも対応しない。
- ・ 横ずれ断層より、正・逆断層の方が発生する津波は大きい。正・逆断層でも傾斜が大きいほど発生する津波は大きい。
- ・ リアス式海岸のV字入り江は、津波に弱い。
- ・ 島・岬は波が集中（地形の凸レンズ効果）し、エネルギーが集まるため、津波に弱い。

③ 南西諸島

- ・ 過去にも地震は起こっている。
- ・ 琉球海溝は長さ1000kmに及ぶフィリピン海プレートの沈み込み口である。
- ・ プレートテクトニクス理論により、前縁弧の海側で発生する巨大地震の可能性は原理的に存在する。

(9) 受講者の感想

- ・ 津波発生と海底のしくみに興味を持った。災害を自分のこととして考えたい。
- ・ 与論の安心・安全なまちづくりについて改めて考え、危機意識を持つことができた。
- ・ 南西諸島に火山とそうではない島があることや隆起することなどが分かり、疑問が解決できた。



講師：浅野 敏之 氏

イ 「誰もが幸せに生きるための人権講座」

(7) 講師

鹿児島県人権同和対策課 鎌田 豊作 研修専門員

(4) 内容

① 人権とは

- ・ 「正しく理解すること」「自分の問題だと感じること」が大切である。

② 高齢者の人権

- ・ 「虐待」が増加している。
- ・ 認知症は病気であることを理解し、受容する必要がある。
- ・ 高齢者の「誇り」と「尊厳」を大切にしながら、孤立しないようにコミュニケーションをしっかりととり、地域ぐるみで支援することが大切である。

③ 障害者の人権

- ・ 「自覚のない」「見えづらい、分かりづらい」からこそ、理解の心を深めることが大切である。
- ・ 個人レベルに立った視点ではなく社会レベルの視点に立った取組が必要である。

④ 子どもの人権

- ・ 児童虐待は、心の痛手であり、その後長い間子どもの心を苦しめる。
- ・ 子どもの成長する権利を守ることは、保護者をはじめ、社会を担っている私たち全ての大人の責務である。

⑤ 人権意識向上のためのキーワード

- ・ 「人の心に思いを馳せる」「つながる」「心配り・思いやり」「『知っている』から『している』へ」

(9) 受講者の感想

- ・ 人権の大切さを痛感した。身近な問題として捉えることができた。
- ・ 高齢者は、人の力で生活できる知恵をたくさんもっている。高齢者排除の傾向を感じていたので、拝聴できて良かった。
- ・ 人の心に思いを馳せることができる人になりたいと切に思った。



講師：鎌田 豊作 氏

【かごしま県民交流センター】

ア 「西郷隆盛と島津斉彬」

(ア) 講師

尚古集成館 松尾 千歳 館長

(イ) 内容

① 薩摩藩主島津斉彬

- ・ 「集成館事業」という近代化・殖産興業政策に力を注ぐ。
- ・ 公武合体の実現を目指し、一橋家の徳川慶喜を推した。

② 西郷隆盛

- ・ 斉彬の手足となり、水戸藩・福井藩や近衛家との連絡に当たり、篤姫入興・将軍継嗣問題に関わる。
- ・ 斉彬の死後、龍郷への潜居、沖永良部島への流罪となる。
- ・ 本当の名(諱)は「隆永」であった。

③ 斉彬の時代

- ・ 琉球外交問題、集成館事業、将軍継嗣問題、篤姫入興

④ 斉彬没後の薩摩

- ・ 文久3年8月18日(1863年)に政変、翌年の禁門の変では、薩摩藩は、幕府・会津藩と手を組み、長州藩と対立した。
- ・ 2年後(1866年)には薩長同盟を結び、第二次長州出兵では出兵を拒否する。
- ・ 慶応3年(1867年)クーデターを決行(王政復古の号令)し、翌年鳥羽伏見の戦いで戊辰戦争が幕を開け、明治新政府が樹立する。

⑤ 薩摩にとっての明治維新とは

- ・ 幕府を倒すことが目的ではなく、日本を植民地化されないような国、近代国家に生まれ変わらせるためのものであった。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 幕末・明治維新の時代の状況がよく分かり、明治維新の正しいとらえ方が勉強になった。
- ・ 島津斉彬や西郷隆盛の時代における役割や考え方がよく理解できた。
- ・ 自分が知っている鹿児島の人々の知らなかった一部分を聞くことができた。



講師：松尾 千歳 氏

イ 「西郷どんでまちあるき～鹿児島城周辺～」

(ア) 講師

NPO法人かごしま探検の会 東川 隆太郎 代表理事

(イ) 内容

◎ 雨天のため、西南戦争についての講義後、交流センター周辺を西郷隆盛や西南戦争、鹿児島城下に関する三択クイズを行いながらのまちあるきを実施

① 西南戦争について

- ・ 軍事的かつ政治的敗北であった。
- ・ 西郷隆盛は、陸軍大将のまま戦争に突入した。
- ・ 焼失家屋は、14141戸。(鹿児島市内9778戸、谷山968戸、加治木516戸、出水200戸)

② 上村行徴日記(当時県庁職員)にみる西南戦争

- ・ 8月30日には、近くに賊が来ているという情報が入る。
- ・ 9月1日 午前11時に突入される。
- ・ 9月2日 (上村一行は)30時間かけ蒸気船で長崎に逃げた。
- ・ 9月4日 (上村一行は)午前3時に喜入沖
- ・ 9月5日 加治木(仮県庁)
- ・ 9月21日 二之丸消失

③ 私学校

- ・ 明治7年6月開校
- ・ 規則が厳しく、上京することを禁ずる(他と交わることを避けるため)。
- ・ 「幼年学校」「銃隊学校」「砲隊学校」の3校を設立。幼年学校は、賞典学校とも呼ばれる。

(ウ) 受講者の感想

- ・ 具体的な場所を少しでも歩くことができてよかった。場所場所の由来が分かり愛着がわいた。
- ・ 西郷どんに関する3択問題をしながらのまちあるきが楽しく、理解しやすかった。
- ・ 教科書に載っていない秘話を聞くことができ、おもしろく学ぶことができた。
- ・ 講座には堀井新太さん(大河ドラマ村田新八役)も参加され、楽しく学ぶことができた。



講師：東川 隆太郎 氏

ウ 「あなたとあなたの大切な人のこころの健康を守るために」

(7) 講師

防衛医科大学校 高橋 聡美 教授

(4) 内容

① 私たちに身近なこころの病

- ・ ストレスによるこころの病（適応障害，うつ病，依存症：物質への依存・プロセスへの依存，自殺など）

② 自殺に傾く人への対応

- ・ 「はぐらかさない」「受け止める，共感に努める」「相手の話にとにかく耳を傾ける・時間を共有する」「一呼吸置いて，静かに，穏やかに」「いかなる状況をも真剣に捉える」「批判しない，叱責しない，説教しない」「死にたい気持ちを伝えてくれたことをねぎらう」
- ・ 対応する自分自身の気持ちをコントロールすることも重要である。

③ 誰かの話を聴く時に

- ・ 「目を見て」「他のことをしない」「言っていることを否定しない」「安易に解決策を言わない」「リフレクション(オウム返し)」「オープンエンドクエスチョン(開かれた問い)」など

④ 居心地のよい環境を作るには（発言の仕方）

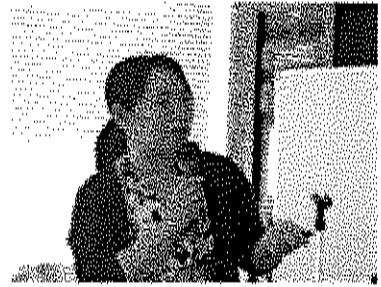
- ・ コントロールしない伝え方をする。
- ・ プラス言葉を使う。（本人が聞いても不快にならない表現）

⑤ 自分の気持ちを整える（受け止め方）

- ・ 自動思考を止める。想像は想像を生み，よい結果を残さない。
- ・ 対処法として，「嫌なことを考えない」「思考の上書きをする，思考は上書きできる」
- ・ 嫌な想像をしても最後はよい想像で終わらせる。
- ・ 意識的にポジティブワードを使う。

(6) 受講者の感想

- ・ 鹿児島弁での講義は，親しみをもって聴くことができた。話を聞きポジティブに行動したいと思った。
- ・ 相手の立場にたって受け止め，よく聴くことが大切であると認識した。
- ・ 夫婦で受講した。これからの生活に変化があることを期待したい。



講師：高橋 聡美 氏

エ 「人と上手にかかわるには？ーカウンセリングの発想に学ぶ」

(7) 講師

東京聖栄大学 有村 久春 教授

(4) 内容

① 構成的グループ・エンカウンター体験

- ・ グループで「人との出会い」や「こころのふれあい」体験を通して，自己表現や自他理解を深める。
- ・ 実践場面としては，道徳や学級活動，総合的な学習の時間など
- ・ 実践のポイントは，「体験の意味の説明」「グルーピングの工夫」「エクササイズ工夫」「シェアリングの工夫」など

② 相手の気持ちを「わかる」とは？

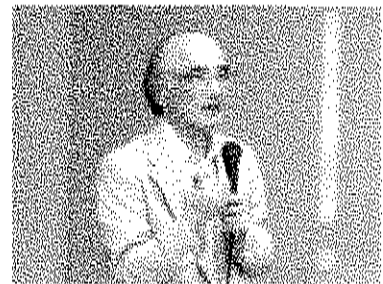
- ・ 相談を受ける人は，「聴く」「共感する」「一緒に考える」ことが大切である。
- ・ 相談をする人は，わかってもらえるという受容体験，気持ちが落ち着くという感情の明確化，自分で考え動くことができるという行動化を経て，「こころ」と「行動」の重なり，つまり自己一致が生まれる。

③ 開かれた質問をする。(Open question)

- ・ 目的は，「情報を収集し，質問を具体化する」「相手に考えさせる（一緒に考える）」などである。
- ・ 特徴は，「相手の自由な発想や意見を聴く」「相手が自分で方向性を見いだすことを期待する」「相手の自発性を引き出す」ことなどが挙げられる。

(6) 受講者の感想

- ・ エンカウンター体験で様々な人と出会い，気持ちが落ち着いた。体験しながら学べた。
- ・ 知らない人とのコミュニケーションの難しさを感じた。相手の気持ち考え理解し，人の関わり方が上手になりたいと思った。
- ・ 相手の話を聴く，気持ちを分かることで，よりよい人間関係が築けるのだと思った。



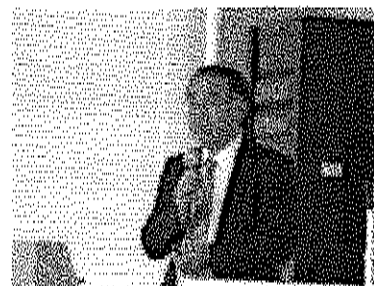
講師：有村 久春 氏

オ 「ノルウェー・フィンランドのいじめ対策に学ぶ」

(ア) 講師
鹿兒島大学教育学系 大坪 治彦 教授

(イ) 内容

- ① フィンランドのいじめ防止プログラムkiVa
 - ・ 政府が統一のいじめ防止プログラムとして導入した(2009年)「kiVa」は、授業形式で学ぶ「kiVaレッスン」とコンピュータゲーム形式の「kiVaゲーム」で、実施校では、いじめ認知件数が2割以上減少し、児童生徒の不安定感(状態不安や抑うつ傾向)が有意に低減したことが挙げられる。
 - ② なぜノルウェーに学ぶのか
 - ・ 国家プロジェクトとして「いじめ対策」を行う意味には、「近年の移民により他民族国家への急速な変貌とそれに伴う差別や排除性の問題」「『教育基本法』に『いじめ防止』を謳う意味」「学校が持つ『責任性』の自覚」「卒業後も持続可能な『いじめ抑止教育』」などがある。
 - ・ 学校全体の取組として「いじめ対策」を行う意味として、「校長のリーダーシップの発揮」
 - ・ 「いじめ防止」が子どもの学力保障となる。
 - ③ ノルウェーのいじめ対策
 - ・ オルヴェンスの「いじめに関するアンケート」、「いじめ防止プログラム」を導入する。
 - ・ いじめ・暴力・人種差別が100%になるまで、徹底的に対策を行う。(例えば予算の増額)
 - ・ 「オルヴェンスいじめ対策」の教室編では、ロールプレイが行われているが、加害者も被害者も原則子どもにはさせない。
 - ・ 徹底して、本気で、必死に、そして教育の力でいじめをなくすことが大切である。
- (ウ) 受講者の感想
- ・ 大人が本気で取り組まなければならないことを痛感した。
 - ・ いじめをやめよう(STOP)を言わせる意識改革や雰囲気作りの大切さを学んだ。これからの指導に役立てたい。
 - ・ 映像があり、他国のいじめ対策の様子がよく分かった。



講師：大坪 治彦 氏

カ 「中高年者の健康づくりのための運動」

(ア) 講師
鹿屋体育大学 吉武 裕 教授

(イ) 内容

- ① メタボリックシンドロームの予防
 - ・ 生活習慣の改善(一次予防)から行う。
 - ・ プレスローの7つの健康習慣①たばこを吸わない②定期的に運動をする③飲酒は適度か、しない④1日7～8時間の睡眠⑤適正体重を保つ⑥朝食は食べる⑦間食はしない
 - ② 老化を変える因子-老化を遅らせることは可能か-
 - ・ 老化は、生理的(正常)老化と非生理的(病的)老化に区分される。
 - ・ 生理的老化の過程は、①食事による老化制御(エネルギー代謝、栄養素)②運動による老化抑制(体力、身体活動量)③酸素毒性(酸化ストレス)④放射線・自然環境(紫外線、温熱環境、光環境、酸素分圧)等の因子により影響を受ける。
 - ③ 健康づくりは、生活習慣の改善から
 - ・ 1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ(厚生労働省) テン
 - ・ 無理して激しい運動をする必要はない。普段から体を動かすこと。プラス10(10分間運動)
 - ・ 運動だけで死亡の危険が減るわけではなく、じっとしている時間を少なくすることも大切である。特に、高齢者の運動としては日常生活の中で積極的に体を動かすことが大切である。
 - ・ 脚は第二の心臓である。人は血管から老いる。老化は脚から始まる。
 - ④ ニコニコベースの運動(福岡大学運動生理学研究室)
 - ・ 特徴として、「危険なほど血圧が上がらない(安全)」「きつくないので長時間の運動が可能である」「脂肪燃焼量が多いので肥満予防に有効である」などが挙げられる。
- (ウ) 受講者の感想
- ・ 日常生活にすぐ取り入れることができるのでありがたかった。
 - ・ 若い時からの生活習慣が大事だと思った。健康づくりは生活習慣の改善からだ学んだ。
 - ・ 運動と身体的活動の違いが分かった。健康と長寿について大変ためになった。



講師：吉武 裕 氏

キ 「子どもの学習意欲の見方・導き方」

(7) 講師

鹿児島大学教育学系 今林 俊一 教授

(4) 内容

① はじめに

- ・ 問題意識(好奇心を持って周りに目を向けていること)をもち、周りの人間は、それを潰さないことが大切である。
- ・ 小さい時は、好奇心を大切にやる。

② 学習意欲の分類(櫻井2013)

- ・ 自律的な学習意欲(自ら学ぶ意欲)と他律的な学習意欲(他の人から言われる、制約があるなど)がある。
- ・ 自律的な学習意欲には、内発的な学習意欲と自己実現のための学習意欲がある。
- ・ 理想的なのは、3つの意欲がバランスよく働くことである。内発的な意欲だけだと、徹底的にやり続けることがある。

③ 学習意欲に適切な報酬(櫻井2013)

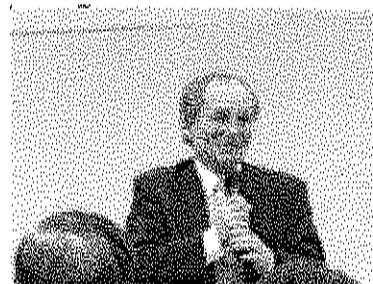
- ・ 無気力→ほめ言葉, ご褒美(学習への参加に伴う), ご褒美(学習の成功に伴う)。学習への参加に伴うご褒美は無気力の時にのみ効果がある。
- ・ 他律的な学習意欲→ほめ言葉, ご褒美(学習の成功・結果に伴う)
- ・ 自律的な学習意欲→見守る, 自己評価(自分でほめる), ほめ言葉
- ・ ほめ言葉は, 承認が良い。

④ 客観的な自己実現を促す対応の仕方(失敗は失敗と認めさせること)

- ・ 思春期の時期は, 万能感(その気になれば何にでもなれるという思い)は捨てていくこと。
- ・ 万能感をもっていると, 目標をもたない。

(7) 受講者の感想

- ・ 目標をしっかりとやることの意味を子供本人に気付かせたい。
- ・ 小学校低・高学年の子供がいる。声かけや対応を変えるべきポイントが分かりやすかった。
- ・ 学習意欲の見方と導き方についてよく分かった。今までの考え方が変わった。



講師: 今林 俊一 氏

ク 「開拓魂、過疎の村からのチャレンジ」

(7) 講師

垂水市大野地区公民館 前田 清輝 館長

(4) 内容

① 大野地区の歩み

- ・ 世帯数83世帯, 人口127人, 標高555m, 高冷地, 海岸には面していない。(平成29年9月末現在)
- ・ 大野のはじまりは, 「桜島の大正噴火」542人が大野地区に入植した。フロンティアスピリット精神があった。
- ・ 「助け合い」「連帯感」があり, みんなで話し合い, 自分たちでできることは何でもするという精神がある。

② むらづくり活動が活発に展開(昭和54年頃から)

- ・ 大野地区の振興・発展を県と協議したいとの地区民からの願いから, 車座対談が実現した。
- ・ 昔の賑わいを取り戻すための「青年団」が復活する。

③ 垂水市総合計画に基づく地域振興計画づくり

- ・ 「大野の人を増やしたい」そのために何をすれば良いのかという思いで作成した。
- ・ 第4次総合計画にもいち早く, 地区のみんなで地域振興計画の見直し(先見の明)
- ・ 「定住促進対策」「大野原(うのばい)いきいき祭り」「鹿児島大学学生との交流」「地区青年部の活躍」→その結果, 大野に住む人が増えた。

④ その他の取組

- ・ 過疎集落等自立再生緊急対策事業への募集→つらさげ芋の貯蔵施設の建設
- ・ 「鹿児島大学学生との棒踊り」「事前出前事業(地域の小学生)」「新任教員研修受け入れ」「JICAが行う海外青年研修の受け入れ」「高齢者と大学生の交流」など
- ・ うのばいブランド化プロジェクト事業

(7) 受講者の感想

- ・ 町の人を呼び込む方法や様々なところとの連携の在り方など, 大変参考になった。
- ・ 前田館長の企画力, 交渉力, 行動力はとても勉強になった。同世代として力をもらった。
- ・ 大野地区の努力に感心した。子供の頃から地域のことを知ることは大切だと思った。



講師: 前田 清輝 氏

3 鹿児島県民大学連携講座

(1) 概要

ア 趣旨

多様化・高度化する県民の生涯学習ニーズに応えるために、大学等の教育機関、市町村等の公的機関、民間の団体等と中央センターが連携して、生涯学習の機会を広く提供するために公開講座等を実施する。

イ 対象者

県民(年齢は問わない)

ウ 連携可能な機関・団体等

次のいずれかに該当するもの。

- ・ 大学、短期大学、高等専門学校、専修・各種学校
- ・ 国・県及び市町村等の公的機関
- ・ 鹿児島県内に主たる事務所を有する民間教育機関の事業者
- ・ 鹿児島県内に主たる事務所を有する生涯学習の推進に資するNPO法人
- ・ 中央センター主催講座修了生等が結成した自主活動グループ
- ・ その他、生涯学習の推進に資する団体

エ 申請できる講座の条件

次に示す内容のうちいずれかに該当するもの。

- ・ 申請者の独自性・専門性を生かした内容のもの
- ・ 県民のニーズの高いもの
- ・ 郷土鹿児島の地域性のあるもの
- ・ 社会的に必要と思われる内容

ただし、次の内容を含む講座は除く。

- ・ 営利を目的とする講座(事業や物品の広報、人材の勧誘や募集活動等も含む。)
- ・ 特定の政党、宗教、宗派の利害を目的として開催される講座
- ・ 公序良俗に反する講座

オ 会場

交流センター及びその他の会場

カ 会場使用料

交流センターを使用する場合は、「鹿児島県民交流センターの設置及び管理に関する条例施行規則第9条第1項第1号」により使用料金額免除とする。その他の会場で開催する場合は、申請者の負担とする。

キ 受講料

受講料は、著しく高額とならないことを基本とし、中央センターとあらかじめ協議を行って決定する(必要な材料費、テキスト代等の実費は、受講者負担とすることができる)。

ク 開催時間等

連携講座実施機関の設定した時間(但し、交流センターの閉館日を除く。)

(2) 講座内容等一覧

ア 大学等

No.	実施機関	No.	講座名及び内容など	期 日	回	会 場	定員	受講者数	
								小計	合計
1	鹿児島大学	1	天の川を探る	7/29(土)	1	中研3	40	23	23
2	鹿児島体育大学	2	現代に生きる「薩摩のハマ投げ」	10/4(水)	1	小研2	30	20	31
		3	みんなで貯筋	11/8(水)	1	小研2	30	11	
3	鹿児島国際大学	4	鹿児島の歴史や郷土の先人についての講座	1/27(土)	1	大学構内	400	282	282
4	志学館大学	5	“西郷どん”にみる新しい西郷隆盛像	6/10(土)	1	県民ホール	500	189	189
5	鹿児島純心女子大学	6	さわやか健康栄養講座	10/7(土)～ 12/2(土)	5	大学構内	各 40	82	82
6	鹿児島県立短期大学	7	比較研究のおもしろさー文学、文化、言語ー	5/27(土) ～ 7/15(土)	8	短大構内	各 60	202	202
7	第一幼児教育短期大学	8	子どもの育ちを支える	3/24(土)	1	短大構内	10	2	2
8	鹿児島純心女子短期大学 江角学びの交流センター	9	シルバー世代のための健康・教養講座	7/8(土)～ 10/21(土)	5	小研2他	各 20	29	214
		10	「かごしま学」公開講義・文化講演会	6/29(木)	1	短大構内	400	185	
9	鹿児島女子短期大学	11	高齢者の健康づくり講座	7/22(土)～ 9/30(土)	4	短大構内	各 30	85	519
		12	くらしと文化講座	10/7(土)	4	短大構内	30～50	139	
		13	第23回 これからの子育て	8/17(木) 8/18(金)	7	短大構内	各 30	295	
10	放送大学鹿児島学習セン ター	14	奄美大島地域における放送大学鹿児島学 習センター公開講座	5/21(日)～ 12/10(日)	4	奄美図書館	各 40	141	242
		15	放送大学鹿児島学習センター公開講演会	2/4(日)～	3	放送大学	80	64	
				2/25(日)	1	放送大学	80	37	
11	鹿児島工業高等専門学校	16	第6回かごしま小水力発電セミナー	7/1(土)	5	大研4	各 100	50	109
		17	鹿児島高専のおもしろ実験教室アイスクリーム作りに挑戦	8/20(日)	1	工芸室	10	5	
		18	再生可能エネルギー技術セミナー	9/15(金)	4	大研2	50	54	

イ 行政機関等

No.	実施機関	No.	講座名及び内容など	期日	回	会場	定員	受講者数 小計	合計
12	県立青少年研修センター	19	作製講座 クリスマスミニリース 昆虫クラフト	12/16(土)	2	工芸室	各 40	130	130
		1/14(日)		2					
13	南薩少年自然の家	21	クラフト活動 サンドグラス	1/20(土)	1	工芸室	30	36	36
14	県立霧島自然ふれあいセンター	22	手紙に創作活動を楽しもう! レザークラフトキーホルダー レザークラフトキーホルダー	1/21(日)	1	工芸室	各 40	30	67
				2/25(日)	1				
15	かごしま産業支援センター	23	小規模事業者・起業を目指す方に役立つ講座	5/10(土)～ 10/7(土)	5	小研3他	各 20	46	46
16	上野原縄文の森	24	縄文人のアクセサリー～髪針 チャレンジ縄のデザインを生かした箸作り 文体験 縄文土器にのこる文様～土器 片クッキーづくり	6/18(日)	1	工芸室	各 20	16	30
				2/10(土)	1	調理実習室			
17	県立奄美図書館	25	あまみならでは学舎	5/13(土)～ 1/20(土)	8	県立奄美図書館	-	488	531
		26	ふしぎ探究塾	7/22(土)	1	-	-	43	

ウ 教育団体

No.	実施機関	No.	講座名及び内容など	期日	回	会場	定員	受講者数 小計	合計
18	鹿児島県マルチメディア教育研究会	27	メディア教育セミナー	8/10(木)	1	大ホール	100	111	111
19	県視聴覚教育研究協議会	28	県放送教育・情報教育研究セミナー	2/2(金)	1	大研2	30	28	28
20	鹿児島県高等学校教育研究会 メディア教育研究部会	29	高等学校視聴覚・情報教育研究セミナー	7/5(水)	1	鹿児島大学 構内	30	16	16

エ NPO法人

No.	実施機関	No.	講座名及び内容など	期日	回	会場	定員	受講者数 小計	合計
21	かごしま遺伝子活用普及協会	30	からだの健康・病気と遺伝子	7/29(土)～ 10/28(土)	5	中研2他	各 30	115	115
22	global	31	英語で伝える鹿児島	6/2(金)～ 7/7(金)	5	小研1他	各 25	50	50
23	鹿児島ASC	32	安心安全タブレット・スマホ講座	4/25(火)～ 1/30(火)	4	小研1	各 15	41	41

オ 自主グループ等

No.	実施機関	No.	講座名及び内容など	期日	回	会場	定員	受講者数 小計	合計
24	kamachi-ya(かまちや)	33	演劇を使って脳と身体をトレーニング!	6/4(日)～ 8/20(日)	3	スタジオ	各 15	16	16
25	鹿児島弁フェスティバル 実行委員会	34	鹿児島弁フェスタ	12/16(土)～ 12/17(日)	4	大ホール他	各 1500	5800	5862
		34	鹿児島弁検定(初級・中級・上級)		4	中研2他			
26	韻天流天吹塾	35	自作の天吹で音色を楽しむ	5/17(水)	5	リハ室4他	各 15	72	72
27	上町健康大学	36	上町健康大学在宅医療講座	5/27(土)～ 2/17(土)	5	大研2他	各 70	169	169
28	徒然草を学ぶ会	37	徒然草講座	5/12(金)～ 7/7(金)	5	中研1	各 40	114	114
29	らくらくピアノの会	38	中高年から始めるらくらくピアノ	5/30(火) 9/26(火)	2	スタジオ	各 10	20	20
30	人材育成修了者による生涯学習講座	39	ふるさと講座「だれでもヨーガ教室！」	5/11(木)～ 6/29(木)	5	スタジオ	各 20	38	38

カ ア～オの総計

講座数 39 講座 127 回 受講者数 9,387 人

(3) 成果・課題及び受講者の感想(各団体実施報告書からの抜粋)

ア 成果

- ・ 文教科教員が専門分野あるいは教育活動上の研究材料を取り上げて、新たな地平を開いてくれる地域に伝わる伝統打球の実態と文化的特徴について理解を深めることができた。
- ・ 筋力を貯め、健康に長生きするには、毎日欠かさず筋力トレーニングを行う必要性と、貯筋運動の正しい方法やその効果についての理解を深めてもらう機会となった。
- ・ 海辺の生き物等の観察を通して、奄美群島の貴重な自然や環境について学習することができた。また、魚や貝の生態について、映像を見たり、説明を聞いたりすることで自然の神秘に気付いてもらい、創作童話コンクールへの意欲を喚起するという目標も達成できた。
- ・ 大河ドラマの効果もあり、例年になく多くの方々の参加申込みを受け付けた。学生ボランティアの参加で、受付、誘導、アンケート回収などを教職員と協力して行うことができ、連携がとても順調であった。
- ・ 今回の講座は、受付開始前から来ている方や奄美在住の方にとってとても興味のある講座内容であった。また、定員を超える参加者があり、聴講される方には会場が少し狭いように思われた。
- ・ 前半は「イメージしたもの」や「視覚でとらえたもの(指示)」を、いかに身体をコントロールしながら行えるか、というような様々なお題に挑戦した。最初は意識したように身体を動かさず苦戦していたが、回数を重ねる度に、脳と身体が連結する感覚を養っていった。その結果、後半でテキストを使用した時、登場人物のイメージを動きに変換する作業(脳→身体)もスムーズにできるようになり、表現力アップへと繋がった。
- ・ 霧島自然ふれあいセンターのプログラムや施設の概要等を広報するよい機会ともなった。
- ・ 地元のコミュニティラジオ局に出演し、公開講座の参加を呼び掛けたことより参加した方もいた。
- ・ 初めて天吹を知り、自分の笛を手にしたときの大変な驚きと嬉しさが感じられ、さつまの古い楽器が吹けるようにと毎回熱心に練習に取り組んでいただいた。
- ・ 参加者の方は、日頃から、英語を使う機会や英語習得に興味のある方が多かった。鹿児島をPRしていただくために、観光資源としての鹿児島島の魅力と言語案内を学んで頂いた。今後海外の方々へ、鹿児島のことを英語で伝えることのできる人材が増えたことは喜ばしいことである。
- ・ 広く県民を対象とする中で、平日にセミナーや相談に来られない小規模事業者や創業希望者にも多く参加頂き、出席者の満足を得たことと、よろず支援拠点のPRにつなげることができた。

イ 課題

- ・ 受講者は、地域の伝統文化や歴史への関心が高く、質疑の場面でも積極的であった。そこで、本講座のように、地域の伝統文化の実態や価値について、受講者も一緒に考え情報を共有できる機会を提供することが必要であると考えられる。
- ・ 貯筋運動が徐々に浸透してきているが、こうした講座を通してより多くの人に対して鹿児島での貯筋運動の普及を実施する必要がある。
- ・ 夏の暑い時間帯に野外観察を行うため、水分補給の注意を促した。幼児等の参加者もいることから、熱中症予防への配慮等、体調に留意することが必要である。
- ・ 海辺での活動を行う際は、安全面への配慮等、十分に行うことが必要である。
- ・ 今回実施したアンケートでは、今後開催して欲しいテーマとして、「奄美の歴史、自然、教育」、「郷土史」、「奄美の各、集落の文化」、「栄養学、健康についての講座」、「ニート、ひきこもり」等、『奄美』に関するテーマだけではなく「身近な問題」等のテーマを希望していた。
- ・ 今後も奄美に関する講座は必要であるが、身近な問題をテーマにした講座も必要であると思われる。
- ・ 集客面…新規や定員数確保のため、独自でルート拡大(SNS・新聞・ラジオ・学校関連・店頭設置等)をしていましたが、実際伸び悩んでいる現状。今後は、主催者側と連携を取りながら、他講座内での告知や、市内外の公共施設への案内設置、新たなPRの仕方を検討していった。

らと思っています。

- ・ 真夏の講座は健康面や安全面に配慮した運営が重要である。
- ・ 技能の習得には時間がかかるので練習を増やしたい。
- ・ 語学系の講座になると女性に傾きがちである。生涯学習として、男性の方にも促せていけるよう、広報や内容の工夫に努めたい。
- ・ 一度はピアノを弾いてみたいと思っていた方々に、学ぶ場を提供できた。
- ・ テーマ名が平易であると、参加しやすい傾向にある。参加しやすいテーマを設定し、多くの方々にセミナーを受講していただきたい。

ウ 受講者の感想

(ア) 大学や行政機関等が実施した講座について

- ・ 「それぞれ専門分野からの講義はとても面白かった。」「話もわかりやすく、興味深く聴講できた。」「なかなか貴重な話を聞くことができ、多くの知見を得ることができた。」
- ・ 「アットホームで内容も楽しかった。入学を前向きに検討しようと思った。」
- ・ 「奄美が将来的にも魅力的な島であり続けるために、よく考えて行動しないといけないと思った。」「島の人たちが将来的なビジョンを描き、共有することが大事だと思った。」
- ・ 歴史や家計管理、男性向け調理など多様な希望が挙げられた。

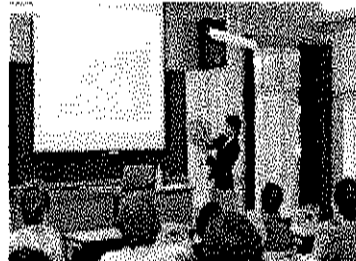
(イ) NPO、自主グループ等が実施した講座について

- ・ 遺伝子の基本的なことが分かった気がします。テロメラの話、メチル化の話、個人の話、興味ありました。もっと活発な研究が進むことを期待しております。
- ・ 大学に行かなくても、大学の先生から専門的な内容の講座で学べることはとてもありがたいと思います。

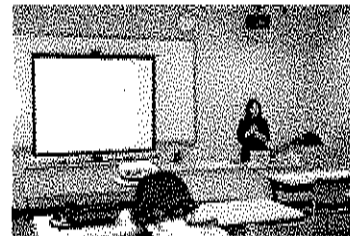
(4) 講座の様子



「放送大学」公開講座
(放送大学鹿児島学習センター)



比較研究のおもしろさ
(鹿児島県立短期大学)



現代に生きる「薩摩のハマ
投げ」(鹿児島体育大学)



ふしぎ探究塾
(県立奄美図書館)



演劇を使って脳と身体をトレ
ニング(かまちや)



「レザークラフトキーホル
ダー」を作ろう
(霧島自然ふれあいセンター)

(5) 総括

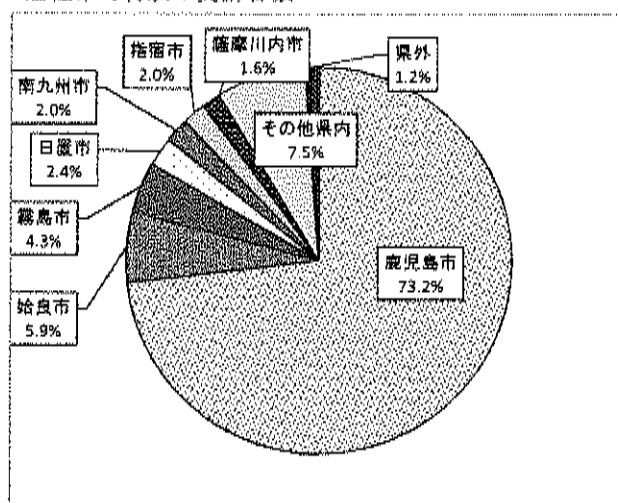
ア 連携先、講座、受講者の数

連携先		連携先 件数	講座数	実施回数	受講者数
大学等	大学	5	6	10	607
	短期大学	4	6	29	937
	放送大学	1	2	8	242
	高等専門学校	1	3	10	109
行政機関 等	県	4	6	16	764
	市町村	0	0	0	0
	公益財団法人	2	2	7	76
民間教育機関		3	3	3	155
NPO法人		3	3	15	206
自主グループ		7	7	28	6,291
合計		30	38	126	9,387

イ 受講の状況(居住市町村別の受講者数)

市町村等	講座の実施時間帯別受講者数					居住市町村別 受講者数	
	平日		土曜日	日曜日	土日 連続	合計	割合
	昼間	夜間	昼間	昼間			
鹿児島市	121	0	36	27	0	187	73.3%
姶良市	6	0	6	3	0	15	5.9%
霧島市	7	0	4	0	0	11	4.3%
日置市	0	0	6	0	0	6	2.4%
南九州市	2	0	3	0	0	5	2.0%
指宿市	1	0	3	1	0	5	2.0%
薩摩川内市	0	0	3	1	0	4	1.6%
その他県内	8	0	11	0	0	19	7.5%
県外	2	0	1	0	0	3	1.2%
合計	150	0	73	32	0	255	100.0%
割合	58.8%	0.0%	28.6%	12.5%	0.0%	100.0%	

居住市町村別の受講者数

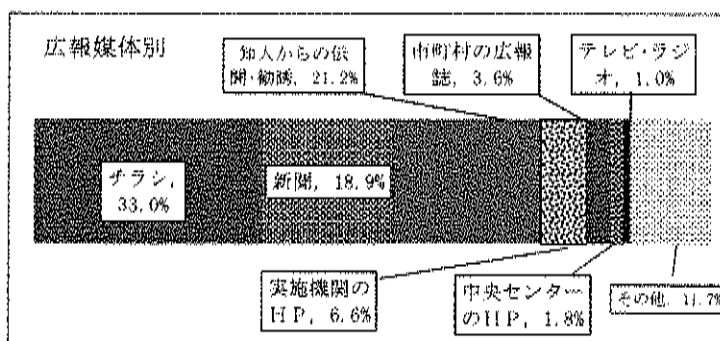


※ 交流センター会場の受講者から抽出したモニター結果

ウ 講座情報入手の状況

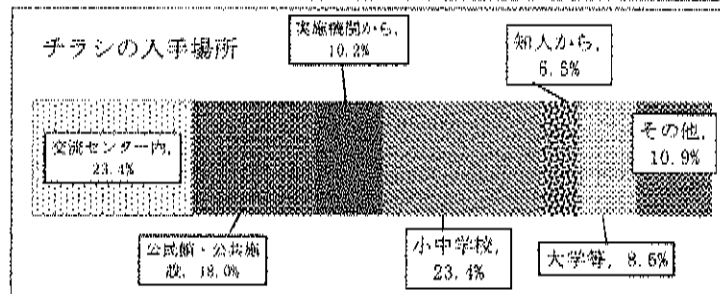
(ア) 広報媒体別

広報媒体	受講者数	割合
チラシ	129	33.0%
新聞	74	18.9%
知人からの伝聞・勧誘	83	21.2%
実施機関のHP	26	6.6%
市町村の広報誌	14	3.6%
中央センターのHP	7	1.8%
テレビ・ラジオ	4	1.0%
その他	54	13.8%
合計	391	100.0%



(イ) チラシの入手場所

場所	受講者数	割合
交流センター内	30	23.4%
公民館・公共施設	23	18.0%
実施機関から	13	10.2%
小中学校	30	23.4%
知人から	7	5.5%
大学等	11	8.6%
その他	14	10.9%
合計	128	100.0%



※ 交流センター会場の受講者から抽出したモニター結果

4 メディア研修講座

(1) 概要

ア 趣旨

(ア) 県民対象研修講座

生涯学習の指導者や指導補助者として教育メディアを活用できる人材育成のため、チラシづくりやビデオ制作などの講義・実習等を通して、資料作成や情報発信に役立つ知識・技術の習得を図る。また、地域活性の一助となるように工夫する。

(イ) 教育関係者対象研修講座

学校や市町村で「教育の情報化」に対応できる指導者を育成するため、コンピュータやビデオを用いた教材の制作や活用に関する講義・実習等を通して、学習指導法の改善や学習指導力の向上を図る。

イ 主催

中央センター（連携講座については、中央センター及び連携先）

ウ 指導者

中央センター指導主事等

エ 場所

交流センター（西棟5F制作演習室）

(2) 講座内容・実施状況

ア 県民対象研修講座 9講座

No	研修講座名	期 日	主 な 内 容	受講者	延受講者
1	デジカメ活用講座～今 目からあなたも名カメ	5/13(土)～14(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジカメの効果的な活用 ・撮影の基本と応用 ・画像処理ソフトの活用 	16	32
2	ラマン①, ②～	12/16(土)～17(日)		24	45
3	地域役員のための「魅 力あるチラシや案内 文」作成講座	6/10(土)～11(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・MicrosoftWordの基本操作 ・チラシ,案内文作成のポイント ・MicrosoftWordの応用操作 	16	30
4	地域役員のための「誰 でもできる名簿や会計 簿」作成講座	11/11(土)～12(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・MicrosoftExcelの基本操作 ・名簿や会計簿作成のポイント ・MicrosoftExcelの応用操作 	16	30
5	ビデオ撮影・編集「完全 マスター2Days」講座～撮 影から編集まで①, ②～	7/ 1(土)～ 2(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ撮影の基礎と応用 ・ビデオ撮影の実際 ・ビデオ編集と作品づくり 	15	30
6		9/ 2(土)～ 3(日)		13	26
7	ネット社会の歩き方教室 ～インターネットやスマ ホを安心・安全に～	7/15(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・疑似体験を通じた情報モラル やセキュリティの理解 ・SNS(LINE, Facebook等)の活用 	14	14
8	自由研究にチャレンジ ～専門家と学ぶプレゼ ン作成講座～	7/22(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の散策と簡単な歴史 学習及び写真撮影の実際 ・自由研究に生かせるプレゼン 作成(簡単な画像編集と素材づくり) 	14	14
9	わがふるさと鹿兒島を ビデオに～地域素材の 映像化にチャレンジ～	10/15(日)・22(日) 11/26(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカメラワーク ・映像構成と撮影の実際,編集 ・ビデオ作品の制作,相互鑑賞 	11	27
県民対象講座受講者合計				139	248

イ 教育関係者対象講座 9講座 (■教育関係団体との連携)

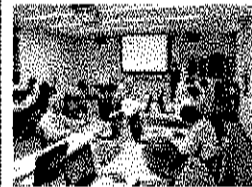
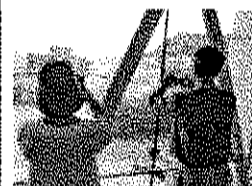
No	研修講座名	期 日	主 な 内 容	受講者	延受講者
1	教育メディア担当者研 修会	5/26(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育メディアに関する講演 ・映画フォーラムの方法と実際 ・映像教材の利用促進事例発表 	15	15
2	授業に生かせるビデオ 教材制作研修講座	7/28(金)・8/18(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なカメラワーク ・ビデオ教材の制作 ・制作教材の評価 	12	22

No	研修講座名	期 日	主 な 内 容	受講者	延受講者
3	授業に生かせるデジタルコンテンツ制作研修講座	8/ 3(木)～4(金)	・教育メディア活用の意義 ・静止画・動画コンテンツの制作 ・授業での活用	18	36
4	プログラミング研修講座	8/ 8(火)	・プログラミング教育の先進事例の紹介 ・プログラミングの体験と研究討議	18	18
5	教育メディア研修(中級)講座	8/23(水)～25(金)	・教育メディア総論 ・デジタルデータの活用 ・ビデオ撮影と編集 ・プレゼンテーションの実践	12	36
6	専門家に学ぶ映像作品づくり講座	11/16(木)	・映像素材の活用 ・撮影・編集の実践 ・生涯学習と映像に関する講演	10	10
■ 7	高等学校視聴覚・情報教育研究会(鹿兒島県高等学校メディア教育研究会)	7/ 5(水)	・視聴覚教育に関する講演 ・視聴覚・情報教育に関する研究協議 ・ICT活用実習	16	16
■ 8	メディア教育セミナー(鹿兒島県マルチメディア教育研究会)	8/10(木)	・情報教育に関するシンポジウム ・情報教育に関する講演 ・情報教育指導の事例発表	111	111
■ 9	県放送教育・情報教育研究会(鹿兒島県視聴覚教育研究会)	2/ 2(金)	・放送教育・情報教育に関する講演 ・放送教育・情報教育に関する実践発表やワークショップ	28	28
教育関係者対象講座受講者合計				240	292
メディア研修講座合計				379	540

(3) 受講者の感想等

ア 県民対象研修講座

- ① デジカメ活用講座～今日からあなたも名カメラマン～
- 今まで撮影した写真を、ただパソコンに取り込んで印刷するだけでしたが、これからはいろいろと編集して楽しみたいと思います。
 - 所属団体等で作成するポスターやチラシのバックに自分で撮影した写真を生かしたい。
 - 講話より演習を主としており、実際にデジタルカメラでの撮影やパソコンでの写真編集を繰り返し実践することで、より分かりやすく理解ができた。
- ② 地域役員のための「魅力あるチラシや案内文」作成講座
- チラシを作る時のイラストの入れ方がよく分かりました。
 - 実際の作業の時間が十分あり、その中で不明箇所を自分で確認しながら学習できるところがよかったです。
 - NPO法人の広報誌編集などに活用したい。
- ③ 地域役員のための「誰でもできる名簿や会計簿」作成講座
- 実践に役立つ裏ワザを教えていただき、これまで使用できなかった操作を学べてよかった。
 - 更なるスキル向上に努め、各種名簿・帳簿作成に生かしたい。
 - 今後の業務や団体の会合等の資料作成に活用していきたい。
- ④ ビデオ撮影・編集「完全マスター2Days」講座～撮影から編集まで～
- 地域の伝統行事や各種イベント等の撮影を積極的に行い、高齢者施設や地域住民等に情報の提供をしたい。
 - 県政番組の作成にあたり、技術的観点をイメージしながらTV局のディレクターと打ち合わせができる気がする。
 - 自宅での編集や役員活動に生かしていきたい。



- ⑤ ネット社会の歩き方教室～インターネットやスマホを安心・安全に～
- インターネットトラブルについて今後注意を更に強くしなければと感じた。
 - 知らないことがたくさんあったのでセキュリティなど今後気をつけていきたいです。
 - スマホの使い方次第で便利にも悪用されることにも使われることを改めて感じることができました。
- ⑥ 自由研究にチャレンジ～専門家と学ぶプレゼン作成講座～
- Power Pointの使い方や著作権、歴史を学んだことが良かった。
 - みんなで歩きながら、写真を撮ったり、実物を見たりして学んだことがよかった。
 - 歴史に興味をもったようなので、この夏休みに連れて行ってみたい。
- ⑦ わがふるさと鹿児島をビデオに～地域素材の映像化にチャレンジ～
- 地域行事の記録や地域のプロモーション動画等の制作に生かしていきたい。
 - 新しい機器の使い方が分かり慣れたことがよかった。作品づくりの一通りの流れが理解できた。
 - 講師の講演はよかった。参考になった。



イ 教育関係者対象研修講座

- ① 教育メディア担当者研修会
- とても分かりやすかった。各市町村の負担金で運営されているので活用するように努力したい。
 - 教育メディアの利用促進のために市の担当者の役割がいかに重要であるかを改めて知ることができました。
 - メディアを活用するに当たって教育行政がどのように運営を進めていくのか基盤を捉えられました。
- ② 授業に生かせるビデオ教材制作研修講座
- フリーのソフトでの編集方法を学べたので、学校に帰ってから実施してみようと思います。
 - Windowsのムービーメーカーの各機能の説明は分かりやすく、生徒に動画を編集させる際に役に立つと思いました。
 - 仕事等で必要な時に自分で動画編集を行いたい。
- ③ 授業に生かせるデジタルコンテンツ制作研修講座
- 使い方がさえ知れば扱いやすく、教材としての幅も広がりそうであると思った。
 - 日頃からよく触れるメディアをより上手に利用する方法を学ぶことができた。
 - デジタルコンテンツを作る上で非常に役立った。
- ④ プログラミング研修講座
- 実際に操作できたことが一番よかった。講義も重要だが、実際体験することで生徒への対応の方法もイメージしやすい。
 - ロボットが実際プログラムしたとおりに動いて子供たちも興味・関心が高まると感じた。
 - 実際に動かしてみる。そして、人のものも見てみることで知識を増やしたり広げたりすることができた。
- ⑤ 教育メディア研修（中級）講座
- ICTに頼るだけでなく、PointでICTを活用し、より伝わりやすい分かりやすい説明ができるようにしたい。
 - 学校での視聴覚教材の作成や同僚への紹介等に生かしていきたい。
 - ムービーメーカーを用いたオリジナル動画の作成が勉強になった。
- ⑥ 専門家に学ぶ映像作品づくり講座
- 講師の久保田先生の講演はとても参考になりました。生涯学習、社会教育それぞれの視点からの視聴覚教育についてや、著作権について初めて知ることが多く驚きました。
 - 著作権、肖像権、個人情報保護等について気を付けること、プラス映像に入り込む画像の利権まで配慮すべき事項であることは目から鱗で大変ためになった。情報発信した先の受け取り側への配慮も忘れずあらゆる想定をしておくことが大事であることも今回改めて学ばせていただきました。
 - 生涯学習と社会教育の違いが法的な部分でよく理解できました。



5 来所研修

(1) 趣旨

教育メディアに関する研究テーマや課題をもったグループ・団体又は個人が来所して、職員の指導・助言のもとに、理論研究や操作演習を通して問題解決を図り、併せて教育メディアの利用促進を図る。

(2) 対象及び内容

来所研修申込兼報告書に必要事項を記入し、提出してもらう。

ア 自主グループによる来所研修

(ア) 中央センターで実施しているビデオやパソコンに関する講座を受講した人を中心に活動しているグループを対象としている。

(イ) 平成30年3月現在、5グループが自主的に活動している。

(ビデオ関係3グループ・パソコン関係2グループ)

イ 県民による個人での来所研修

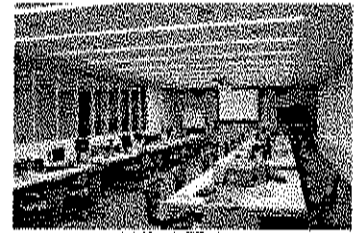
(ア) 県民の研修については、原則として中央センターの講座修了者を対象とする。

(イ) 電話や文書で所属名・研修者氏名・研修内容を連絡してもらい、来所研修申込みを受け付ける。

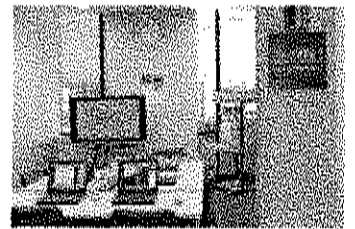
ウ 学校教育・社会教育関係者による来所研修

(ア) 電話や文書で所属名・研修者氏名・研修内容を連絡してもらい、来所研修申込みを受け付ける。

(イ) 部活動や学級活動など児童生徒が来所研修する場合は、顧問の教員や担当者の同伴を条件とする。



制作演習室



パソコン演習室



ビデオ編集室

(3) 実施日

原則として、開館日の午前9時～午後5時とする。

ただし、休館日・研修講座開催日・業務に支障をきたすおそれのある日は除く。

(4) 成果

ア 地域社会への貢献

各地域の美しい自然や優れた伝統芸能・地域行事等を映像化して、地域公民館や学校・教育関係等へ提供している。

イ 指導者・サポーターとしての貢献

各市町村で行われる研修会等での指導者や中央センターで行う講座のサポーターとして活躍している。

ウ 県及び全国視聴覚教材コンクールへの出品

来所研修をしている方が制作したビデオ作品やパソコン教材が、県自作視聴覚教材コンクールに毎年多数応募されている。全国のコンクールに出品し、ここ数年高い評価を得ている。

エ 自主グループ発表会「ふれあいメディアフェスティバル」の実施

自主グループの日頃の活動の様子や成果を発表し合い、お互いの交流や親睦を図ることによりメディア教育に関する知識や技術の向上が図られている。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	—	124	91	164	147	190	315	166	73	136	212	50	1,668
16	176	160	210	247	108	126	186	131	116	107	216	184	1,967
17	118	236	368	434	158	244	245	178	107	264	446	146	2,944
18	119	137	243	250	427	275	248	311	139	198	165	213	2,725
19	199	147	205	273	358	280	244	313	205	275	239	232	2,970
20	270	152	206	387	188	265	296	266	201	275	349	147	3,002
21	272	166	295	294	245	197	296	393	218	320	323	193	3,212
22	154	135	245	206	152	146	229	244	108	174	238	183	2,214
23	176	174	202	207	150	151	280	318	375	137	355	102	2,627
24	291	205	271	218	175	234	249	274	213	223	359	117	2,829
25	198	167	230	171	123	207	156	181	115	201	119	59	1,927
26	226	190	101	141	122	151	188	177	143	165	164	59	1,827
27	151	177	88	142	34	143	106	234	124	142	158	87	1,586
28	83	82	180	77	41	111	112	167	94	180	158	42	1,327
29	135	87	145	96	39	122	143	146	136	189	115	65	1,418

表 オープン当初からの来所研修による利用状況（平成30年3月31日現在）